

大阪市高齢者実態調査報告
(本人調査・付随調査)

平成26年3月

大阪市 福祉局 高齢福祉課
高齢施設課
介護保険課

高齢者実態調査（本人調査・付随調査）

目次

1	調査概要	
	(1) 調査目的	
	(2) 調査設計	
	(3) 調査項目	
	(4) 回収状況	
	(5) 報告書の見方	
2	調査結果	
	本人調査	
	(1) 調査対象者の基本属性	
	問1 調査票記入者	1
	問2 (1) 性別	2
	問2 (2) 年齢	3
	問2 (3) 居住区	3
	問2 (4) 居住区の在住年数	6
	(2) 世帯・住まいの状況	
	問3 世帯の状況（同居家族）	7
	問3-1 昼間独居の状況	8
	問4 住宅の種類	9
	問4-1 持ち家の建築時期	9
	問5 高齢者が安全・安心に暮らす対応の有無	11
	(3) 健康状態・健康に対する意識、日常生活の状況	
	問6 介護保険の申請・認定の状況	13
	問6-1 認定申請していない理由	15
	問7 日常生活動作・日常的な活動の状況	17
	問8 外出の頻度	18
	問8-1 外出がしない（少ない）理由	19
	問9 外出するときの目的	20
	問10 現在、健康のために気をつけていること	22
	問11 今後、健康のために取り組みたいこと	22
	問12 介護予防事業への参加状況	27
	問12-1 （不参加の方）事業への今後の参加意向	29
	問13 かかりつけの医師・歯科医師の有無	30
	問14 歯の状態	31
	問15 かんで食べる時の状態	32
	問16 日常生活全般に対する不安	33
	問16-1 不安に感じることの内容	35
	(4) 就労・地域生活の状況・意向、いきがいの状況	
	問17 収入のある仕事の有無	38
	問18 今後仕事をしたい（続けたい）かの意向	39
	問18-1 仕事をしたい（続けたい）理由	40

(4) 就労・地域生活の状況・意向、いきがいの状況	
問19 近所付き合いの程度	41
問19-1 近所付き合いがほとんどない理由	43
問20 継続的に参加している団体や集まり	44
問20-1 (参加している方) 参加のきっかけ	45
問20-2 (参加していない方) 参加していない理由	46
問21 地域社会に貢献できると考える活動	47
問22 地域で行われている見守りに関する取り組み	49
問23 近所の方がお困りの時、お手伝いできること	51
問24 困った時、地域の人に助けてもらいたいこと	51
問25 楽しみや生きがい	54
(5) 将来の介護や援護に対する考え	
問26 特別養護老人ホームの整備に対する考え	56
問27 特別養護老人ホームへの入所に関する意向	58
問28 介護や援護が必要になった場合に希望する暮らし方	60
問29 在宅生活継続のために必要な支援	62
(6) 現在の暮らしに対する考え	
問30 現在の暮らしに対する気持ち	65
(7) 地域生活支援	
問31 地域包括支援センター等の利用・認知状況	66
問31-1 地域包括支援センター等を知ったきっかけ	68
問31-2 地域包括支援センター等を利用された目的	69
問31-3 地域包括支援センター等を利用した際の満足度	70
問32 高齢者虐待の通報・相談先の認知度	71
問33 認知症という病気の認知度	72
問34 認知症を不安に感じるときの相談先	73
問35 認知症の人の支援に必要と考えること	75
問36 孤立死について考えること	77
問36-1 孤立死を身近に感じる理由	79
問37 孤立死を防止するために必要と考える支援	80
問38 災害時・緊急時にひとりで避難が可能か	82
問38-1 (ひとりで避難できない方) 手助けを頼める人の有無	82
問39 災害時の心配事	83
問40 個人情報の地域団体等への提供についての考え	85
問41 困ったときの相談相手	87
(8) 高齢者施策全般	
問42 高齢者向け施設や事業の利用状況・意向	88
問43 高齢者向け福祉サービス、制度の利用状況・意向	89
問44 高齢者向けサービスの情報の入手方法	90
問45 重点を置くべきと考える高齢者施策	91
付随調査	
食事の会食サービス利用者調査	96
老人憩いの家の利用者等調査	100

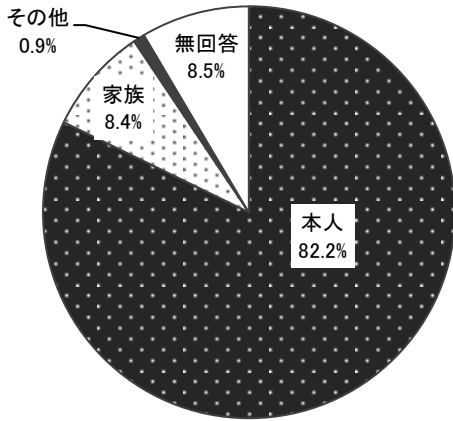
(1) 調査回答者の基本属性

問1 調査票記入者

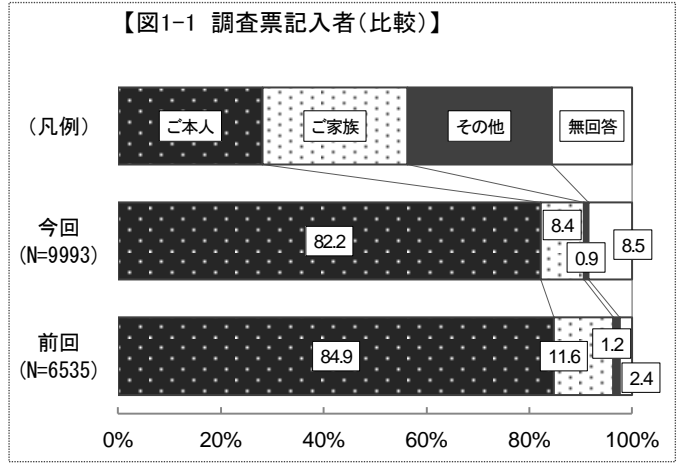
- ・調査票の記入者は、「本人」が82.2%、「家族」が8.4%となっている。
- ・前回調査と同じく、8割以上の方は、ご本人が調査に協力いただいている。

【図1 調査票記入者】

(N=9993)

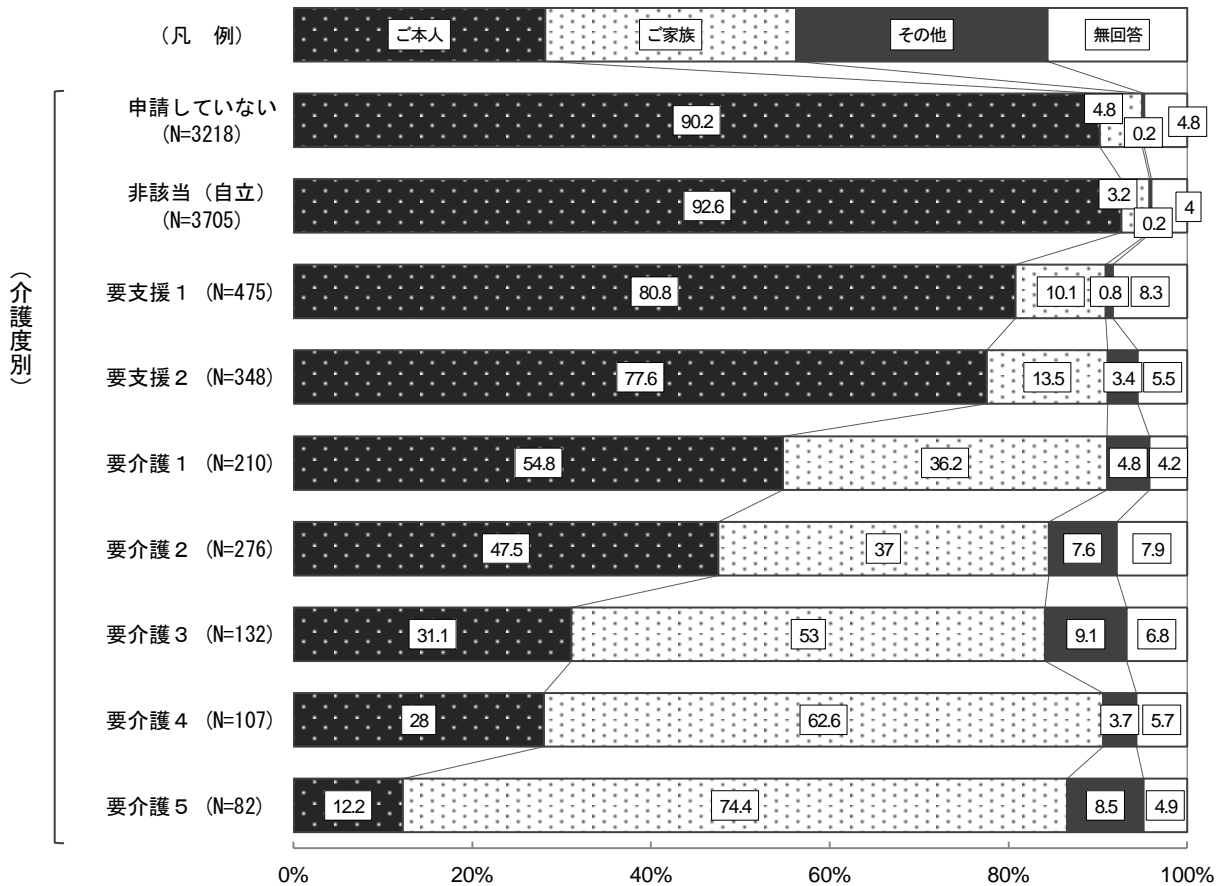


【図1-1 調査票記入者(比較)】



- ・介護度別にみると、介護度が上がるほど「本人」が記入の割合は下がっており、要介護5では、7割以上が「ご家族」の協力によって記入されている。

【図1a 調査票記入者(介護度別)】

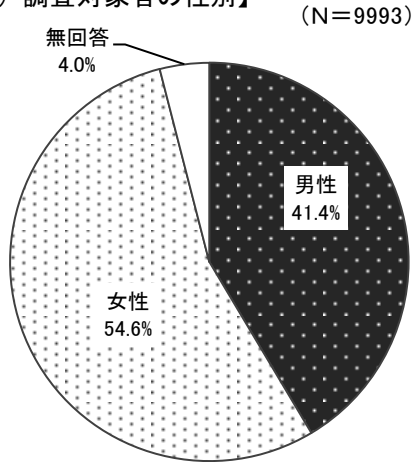


(1) 調査回答者の基本属性

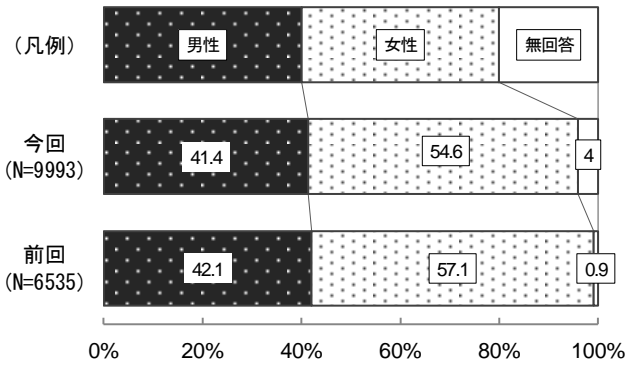
問2(1) 性別

- ・調査回答者の性別は、「男性」より「女性」の割合が高くなっている。
- ・回答者の性別の割合は、概ね前回調査と同様となっている。

【図2(1) 調査対象者の性別】

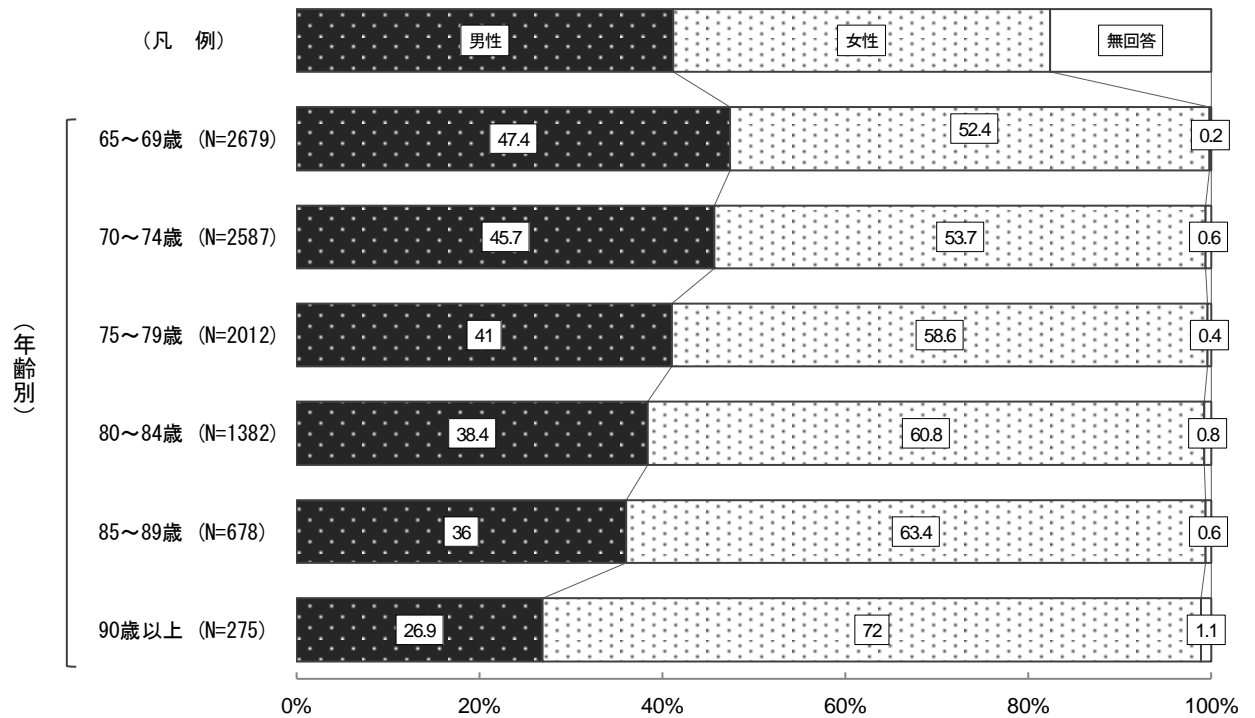


【図2(1)-1 調査対象者の性別(比較)】



- ・調査回答者の性別を年齢別に見ると、高齢になるほど、男性の回答者の割合が下がっている。

【図2(1)-a 調査対象者の性別(比較)】

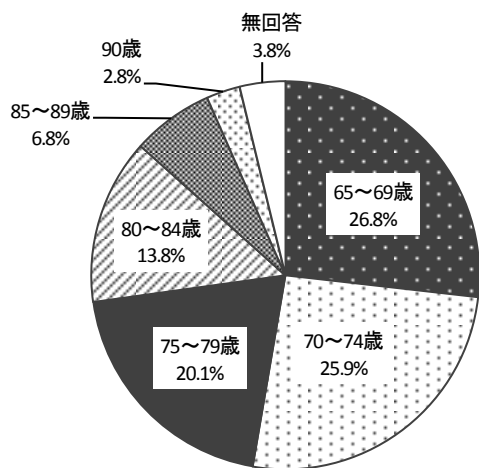


(1) 調査回答者の基本属性

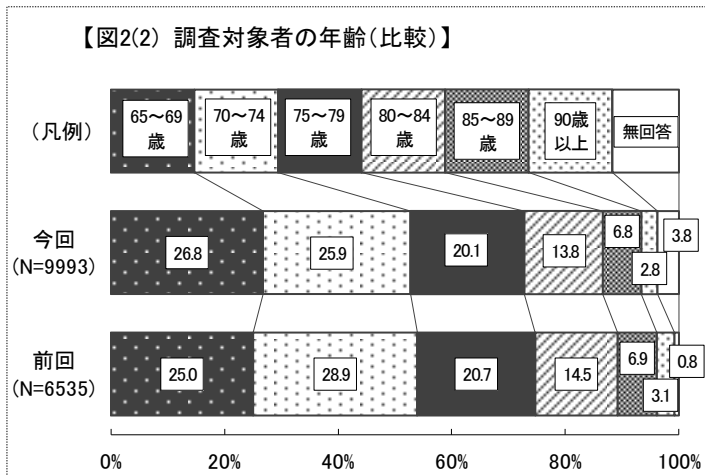
問2(2) 年齢

・調査回答者の年齢は、前期高齢者（65歳～74歳）の回答が5割を超えており（52.7%）、後期高齢者の回答は43.5%となっている。
 ・前回調査と比較すると、65～69歳の回答者の割合がやや増え、70～74歳の回答者の割合がやや減っているが、全体的には、概ね前回と同様の構成割合となっている。

【図2(2) 調査対象者の年齢】

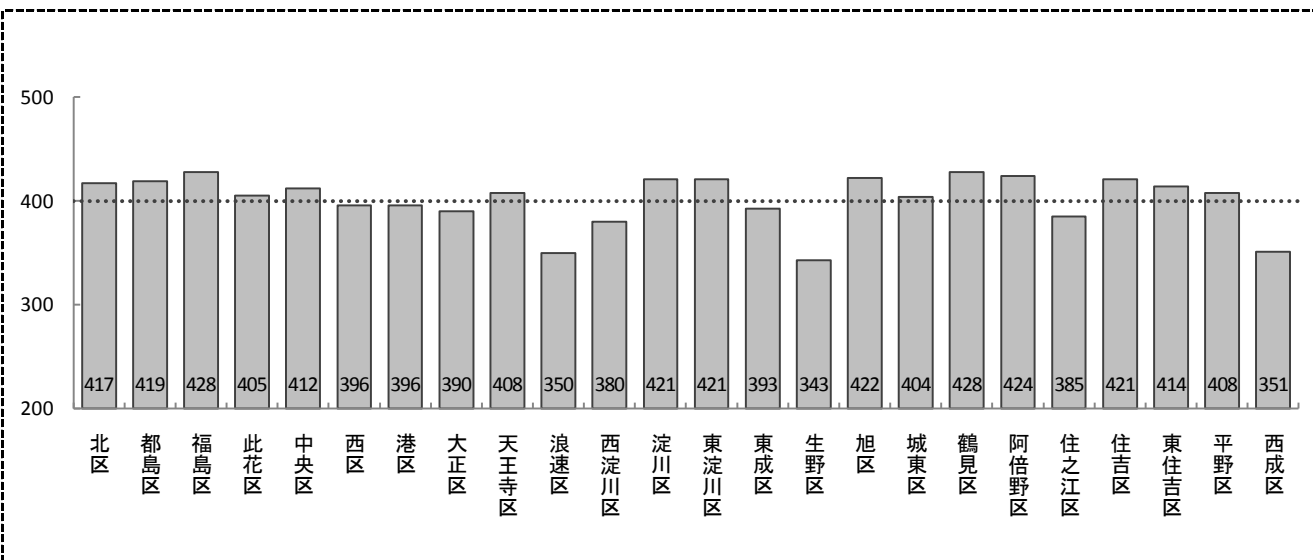


【図2(2) 調査対象者の年齢(比較)】



問2(3) 居住区

・調査回答者について、24区別に400件程度の回答を得ているが、浪速区、生野区、西成区からの回答はやや少なくなっている。

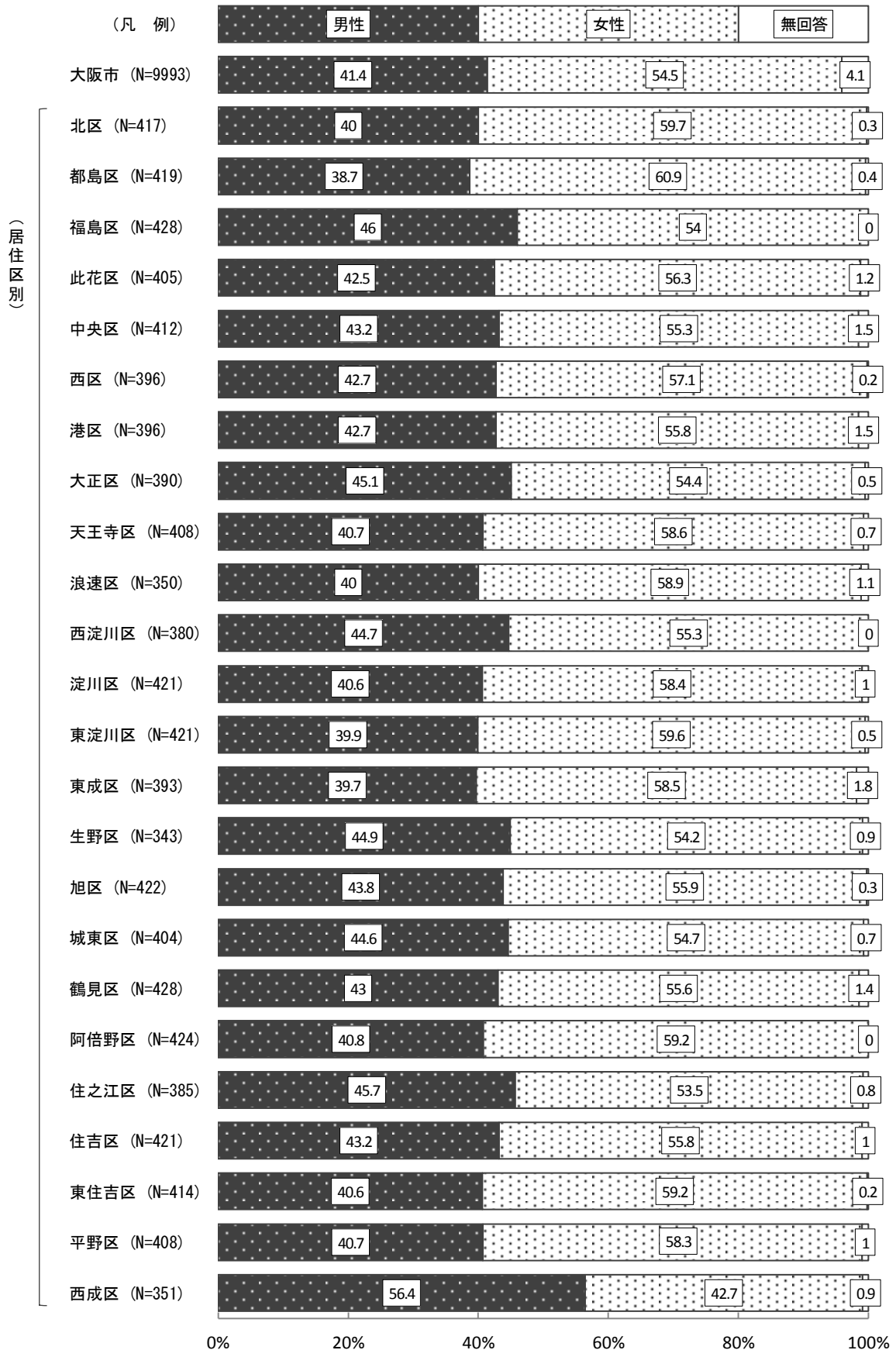


(1) 調査回答者の基本属性

問2(3) 居住区 (性別)

- ・調査回答者の性別について区別でみると、概ね男性が4割前後、女性が6割弱となっている。
- ・西成区については、他の区と比べて、男性の回答割合が高くなっている。

【図2(3)-1 調査対象者の居住区(性別)】

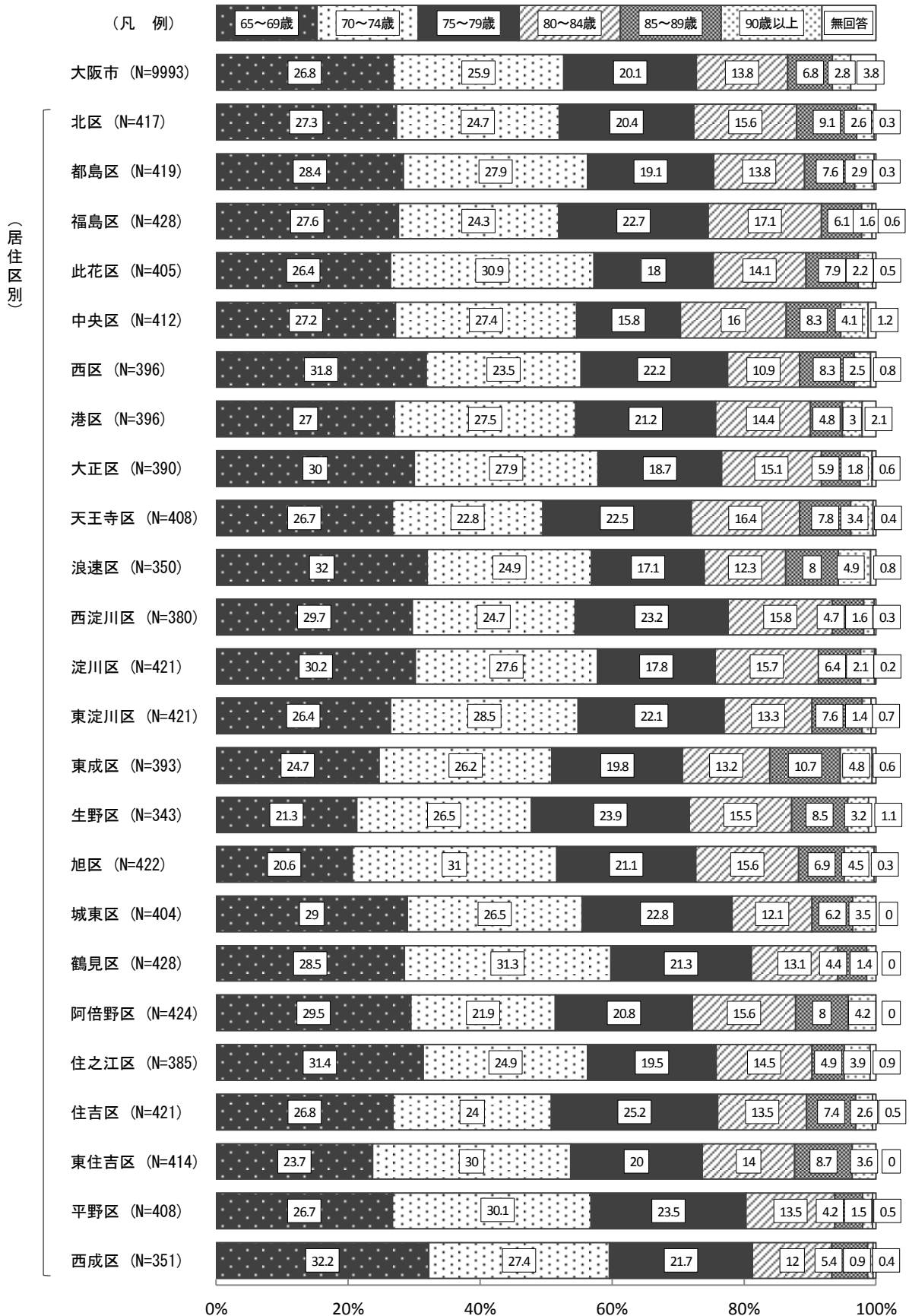


(1) 調査対象者の基本属性

問2(3) 居住区 (年齢別)

- ・調査回答者の年齢について区別にみると、区によって構成は異なっている。
- ・鶴見区、西成区は、前期高齢者の回答が6割近くと高くなっている。

【図2(3)-2 調査対象者の居住区・年齢別】

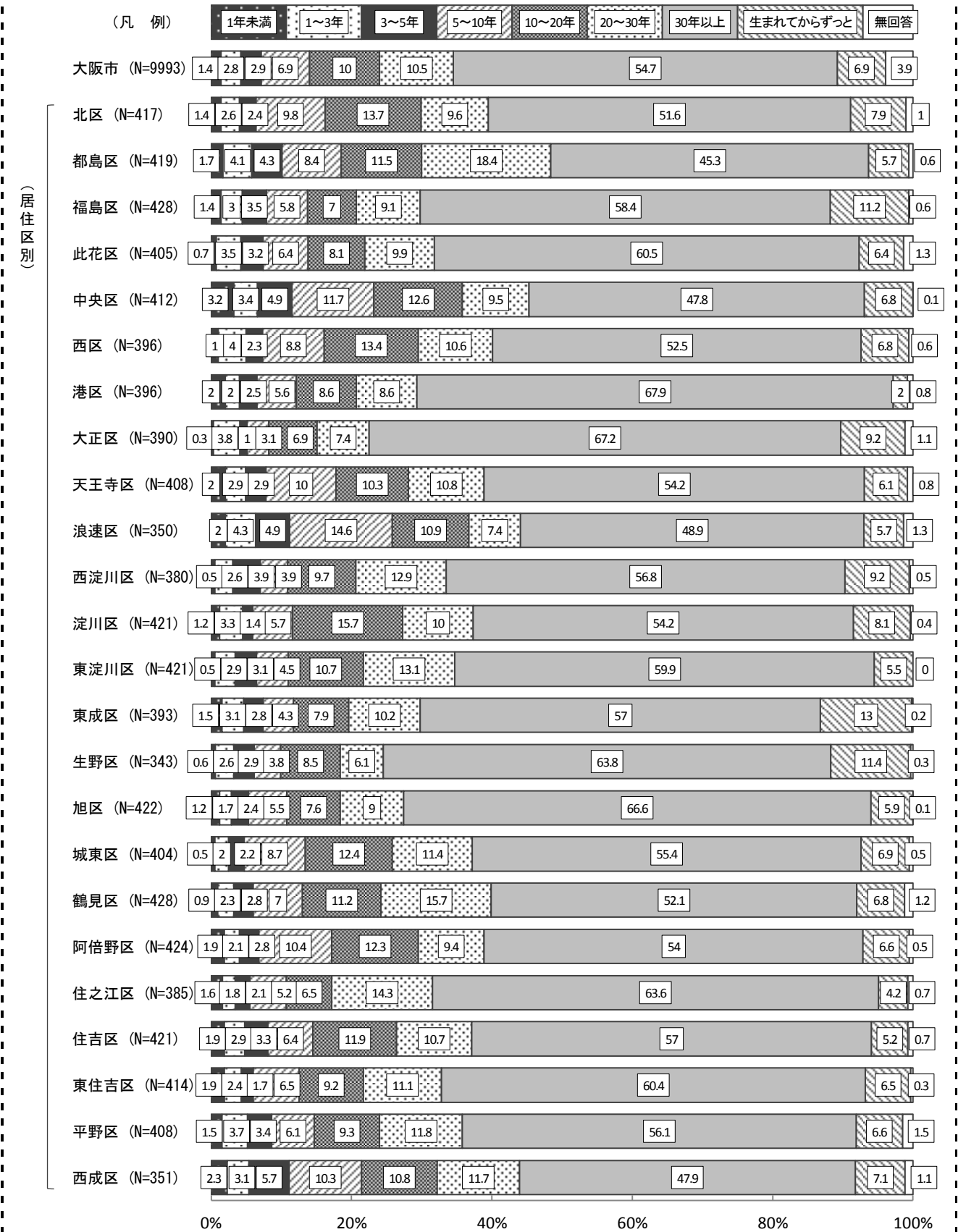


(1) 調査回答者の基本属性

問2(4) 居住区の在住年数

- ・居住年数については、「生まれてからずっと」を含む30年以上の居住者が6割を超えている。
- ・区別にみると、大正区、生野区は、30年以上の居住者の割合が他の区より高く75%を超えている。
- ・他方、都島区、中央区、浪速区、西成区は、5年未満の居住者の回答割合が他の区より高くなっている。

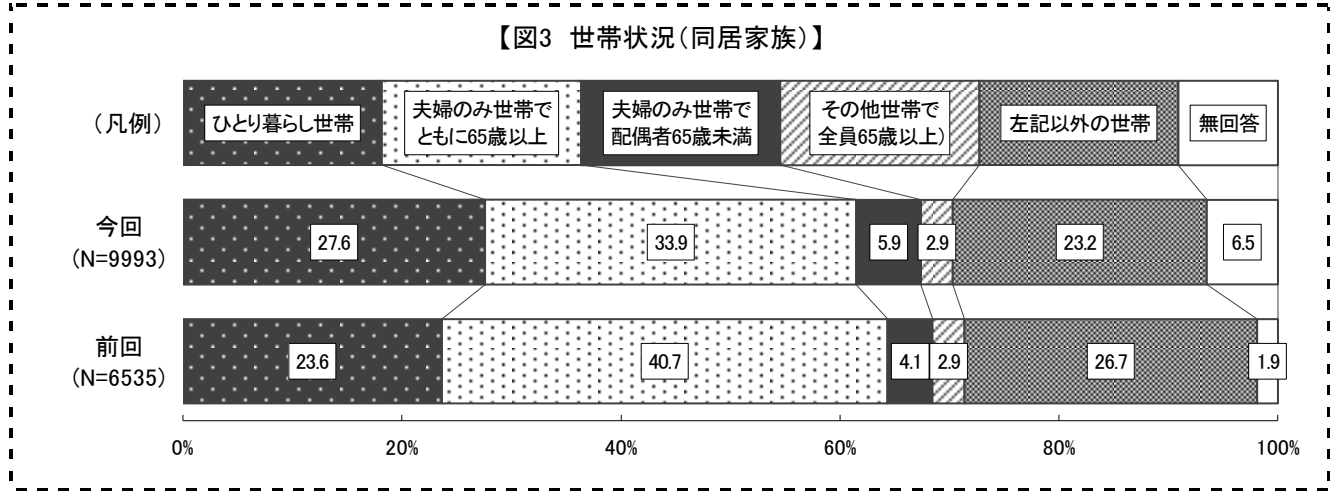
【図2(4) 居住区の在住年数】



(2) 世帯・住まいの状況

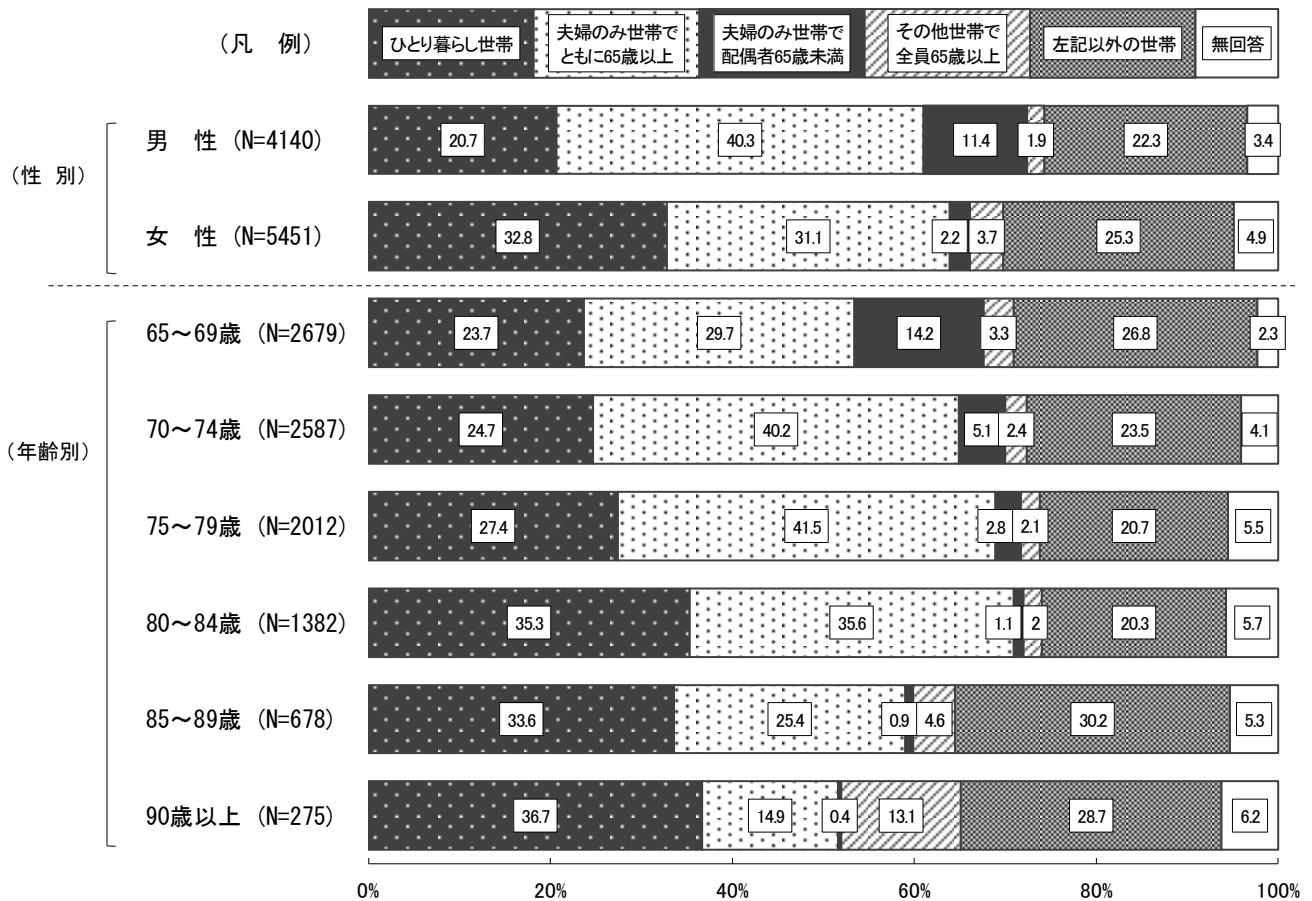
問3 世帯の状況(同居家族)

・調査回答者の世帯状況については、「夫婦のみ世帯でともに65歳以上」の割合が33.9%で最も高くなっており、次いで「ひとり暮らし世帯」が27.6%となっている。
 ・前回調査と比較すると、「夫婦のみ世帯でともに65歳以上」が減少し、「ひとり暮らし世帯」の割合が増加している。



・性別で見ると、「ひとり暮らし世帯」は、男性に比べ女性の割合が高くなっており、「夫婦のみ世帯」は、男性の方が割合が高くなっている。
 ・年齢別では、概ね高齢になるほど、ひとり暮らし世帯の割合が増え、「夫婦のみ世帯」の割合が減少する。また、90歳以上では、「その他世帯で全員65歳以上」の割合が他よりも高い。

【図3-a 世帯状況(同居家族)】

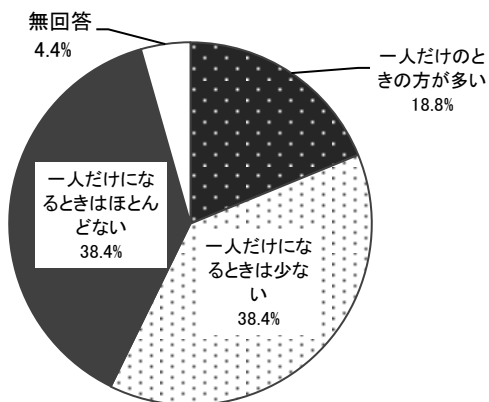


(2) 世帯・住まいの状況

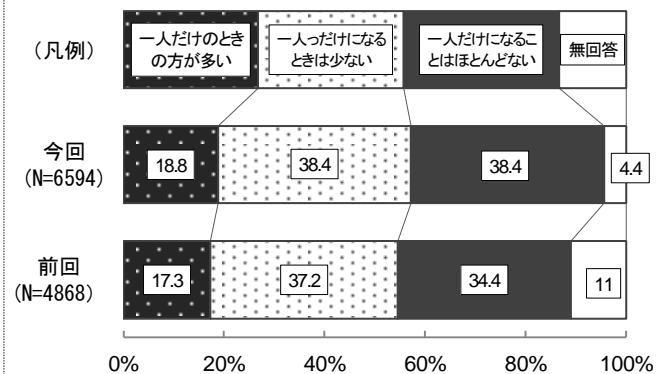
問3-1 (ひとり暮らし世帯以外の世帯) 昼間独居の状況

- ・調査回答者の昼間の状況は、「一人だけになるときはほとんどない」、「一人だけになるときは少ない」をあわせると76.8%となっている。
- ・前回調査と比較すると、「一人だけになることはほとんどない」の割合がやや高くなっている。

【図3-1-1 昼間独居の状況】 (N=6594)

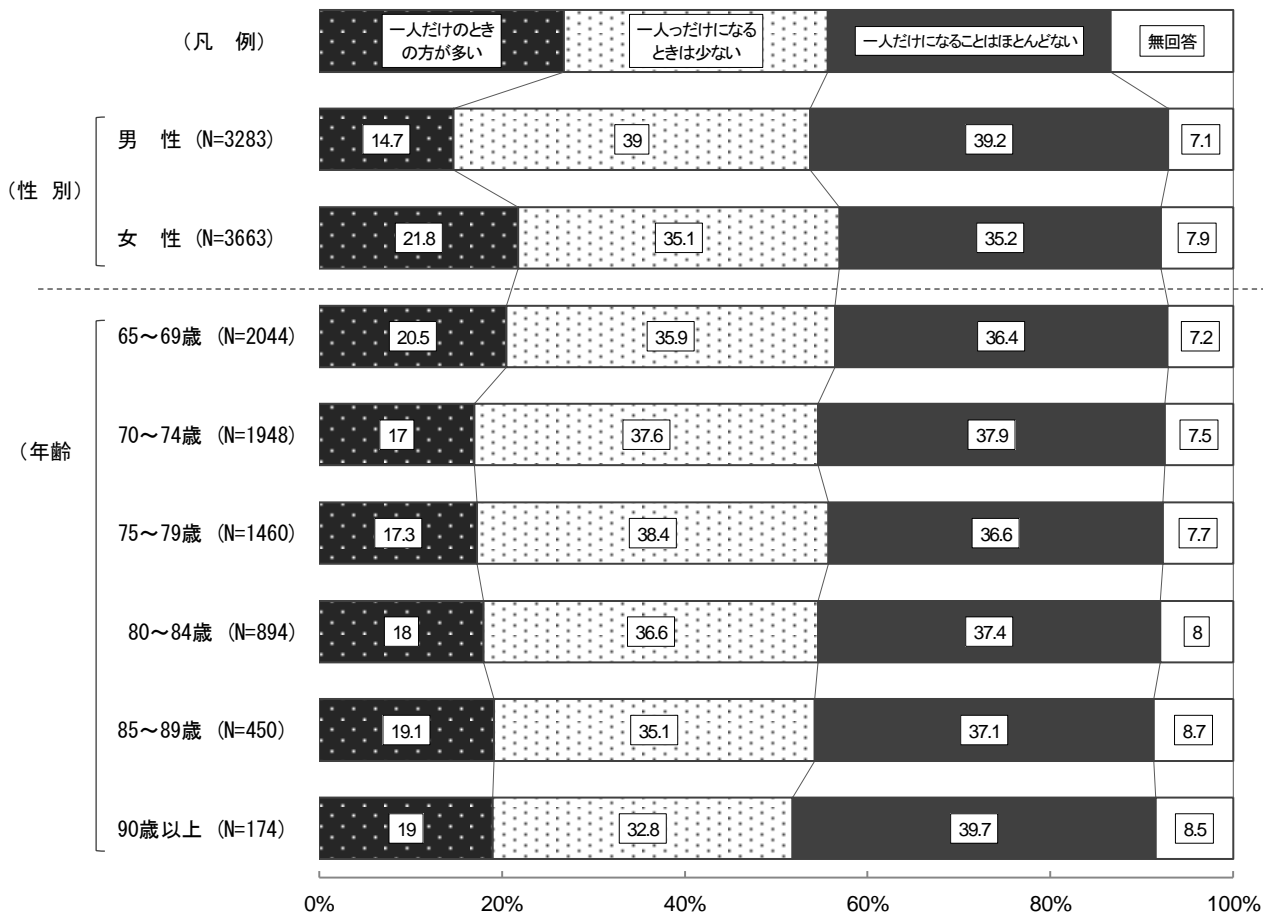


【図3-1-2 昼間独居の状況(比較)】



- ・性別でみると、男性よりも、女性の方が、「一人だけのときの方が多い」の回答割合が高くなっている。
- ・年齢別では、年齢区分ごとでそれほど大きな差はないが、65～69歳で「一人だけの方が多い」の回答割合が他よりもやや高くなっている。

【図3-1a 性別・年齢別】

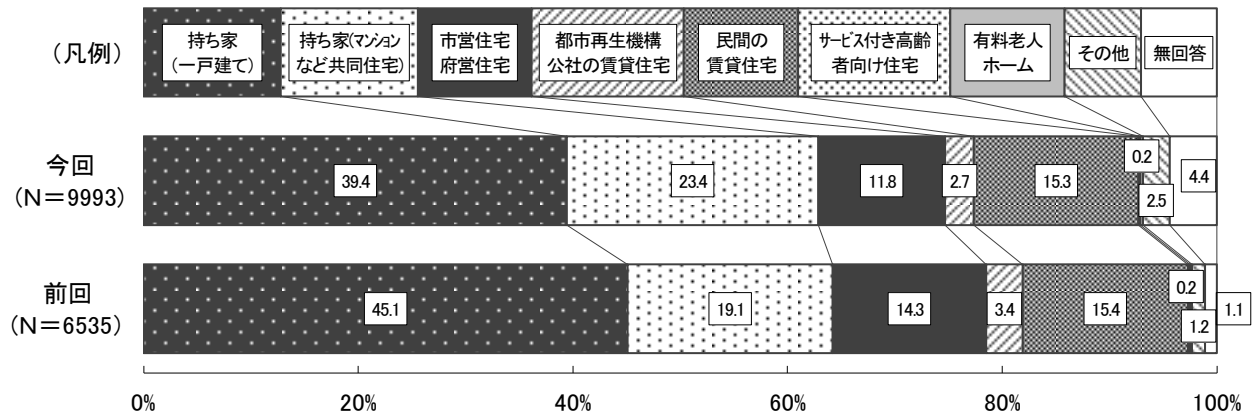


(2) 世帯・住まいの状況

問4 住宅の種類

・調査回答者の住宅の種類については、約4割の方は「持ち家(一戸建て)」との回答となっている。次いで、「持ち家(マンションなどの共同住宅)」となっており、両方合わせると、「持ち家」との回答割合は6割を超える。
 ・前回調査と比較すると、「持ち家(一戸建て)」は5.7ポイント低くなり、「持ち家(マンションなど共同住宅)」が4.3ポイント高くなっている。

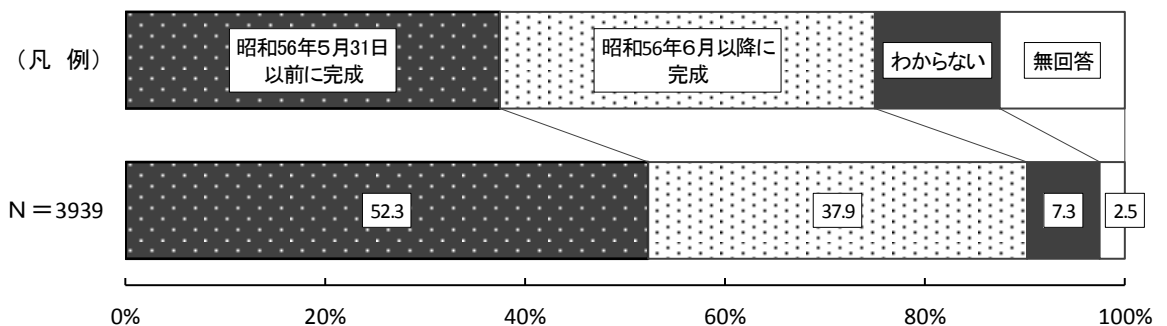
【図4 住宅の種類】



問4-1 持ち家の建築時期(一戸建ての持ち家の方)

・住居の建築時期は、「昭和56年5月31日以前に完成」が最も多く5割を超えている。

【図4-1 持ち家の建築時期(一戸建ての持ち家の方)】

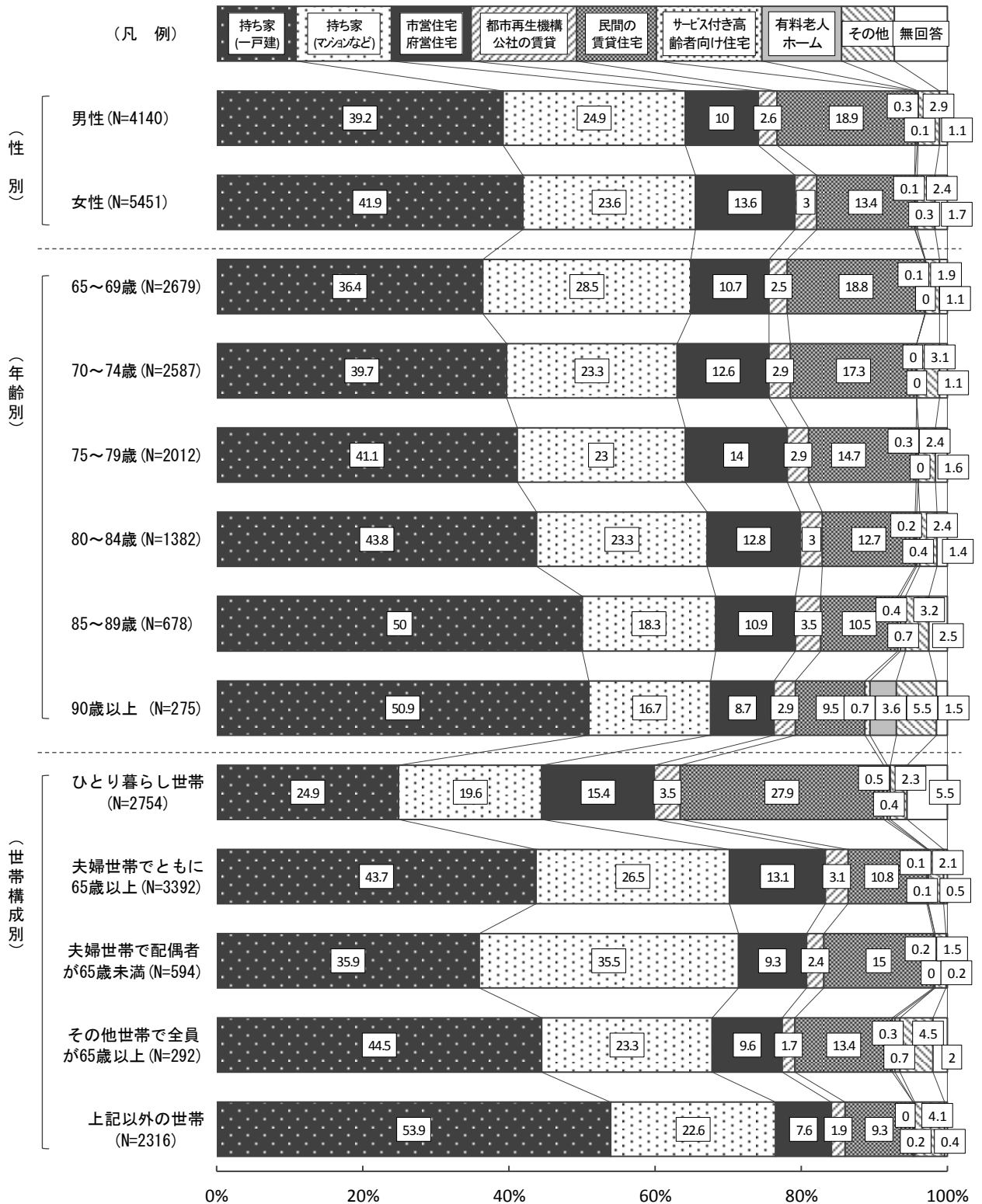


(2) 世帯・住まいの状況

問4 住宅の種類 (性別・年齢別・世帯別)

・性別でみると、「持ち家(一戸建)」は女性の回答割合がやや多く、「持ち家(マンションなど共同住宅)」は男性がやや多い。また、「市営・府営住宅」は女性の、「民間の賃貸住宅」は男性の回答割合が多くなっている。
 ・年齢別では、概ね高齢になるほど、「持ち家(一戸建)」の割合が高なり、「持ち家(マンションなどの共同住宅)」の回答割合が低くなっている。
 ・世帯別では、ひとり暮らし世帯は、他の世帯に比べて、「持ち家(一戸建)」の割合が低く、「民間の賃貸住宅」の割合が高くなっている。

【図4-a 住宅の種類(性別・年齢別)】

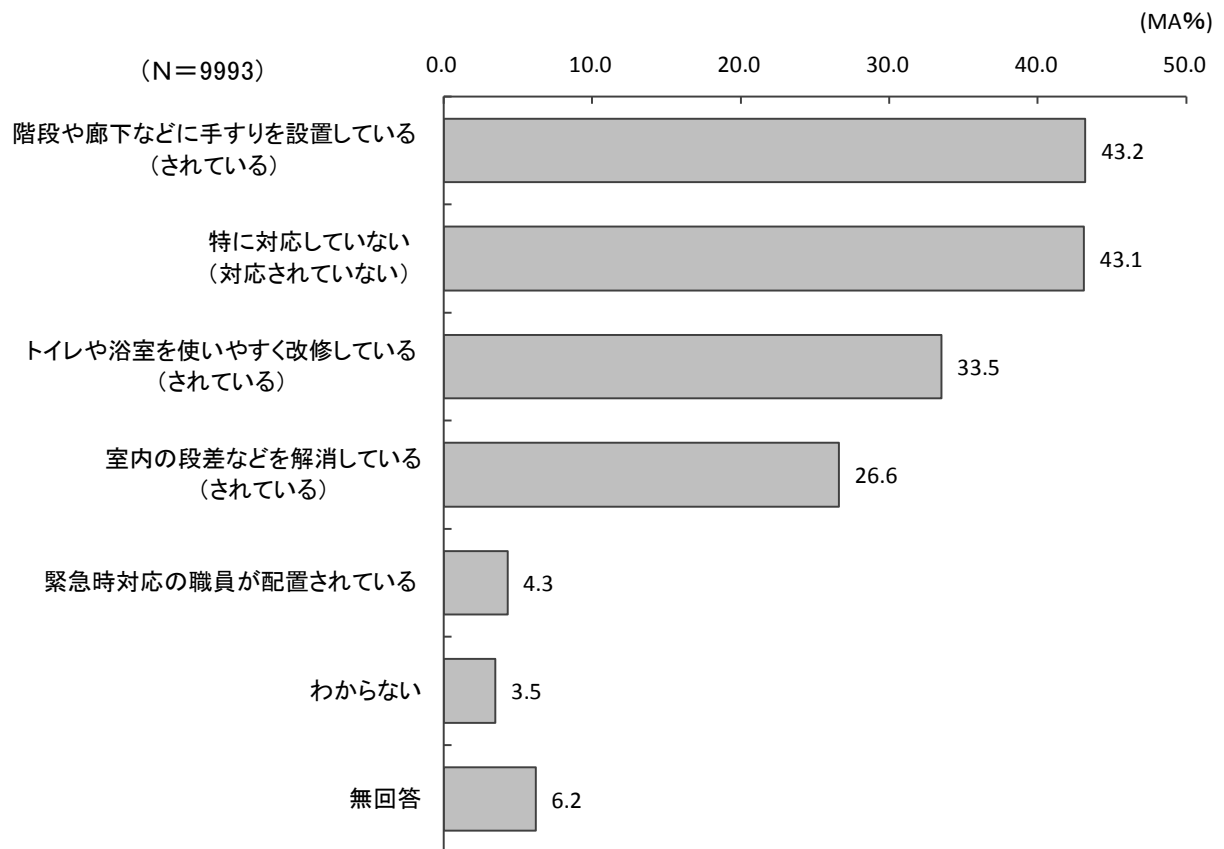


(2) 世帯・住まいの状況

問5 高齢者が安全・安心に暮らす対応の有無 (複数回答)

・住宅の高齢者対応化の内容では、「階段や廊下などに手すりを設置している(されている)」が43.2%で最も多く、次いで「トイレや浴室を使いやすく改修している(されている)」が33.5%、「室内の段差などを解消している(されている)」が26.6%となっている。
・また、「特に対応していない」43.1%となっている。

【図5 住宅の高齢者対応化】

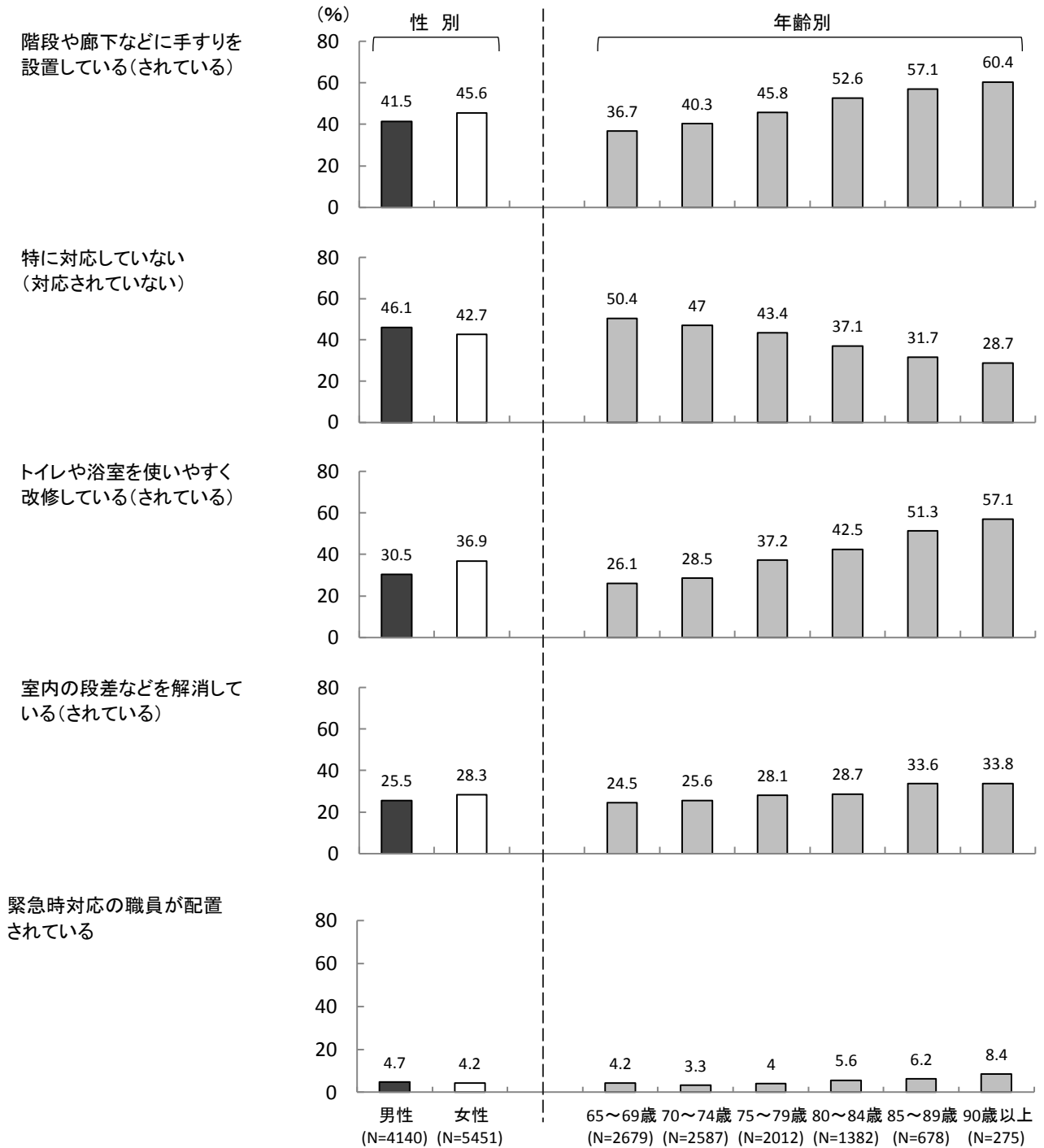


(2) 世帯・住まいの状況

問5 高齢者が安全・安心に暮らす対応の有無 (性別・年齢別)

・性別で見ると、高齢者が安全・安心に暮らすために住宅改修等の対応がされている状況は、全般的に女性の方がやや高くなっている。
 ・年齢別では、概ね高齢になるほど、住宅改修等の対応がされている割合が高くなっており、逆に「特に対応していない(対応されていない)」は高齢者になるほど少なくなっている。

【図5-a 住宅の高齢者対応化(性別・年齢別)】

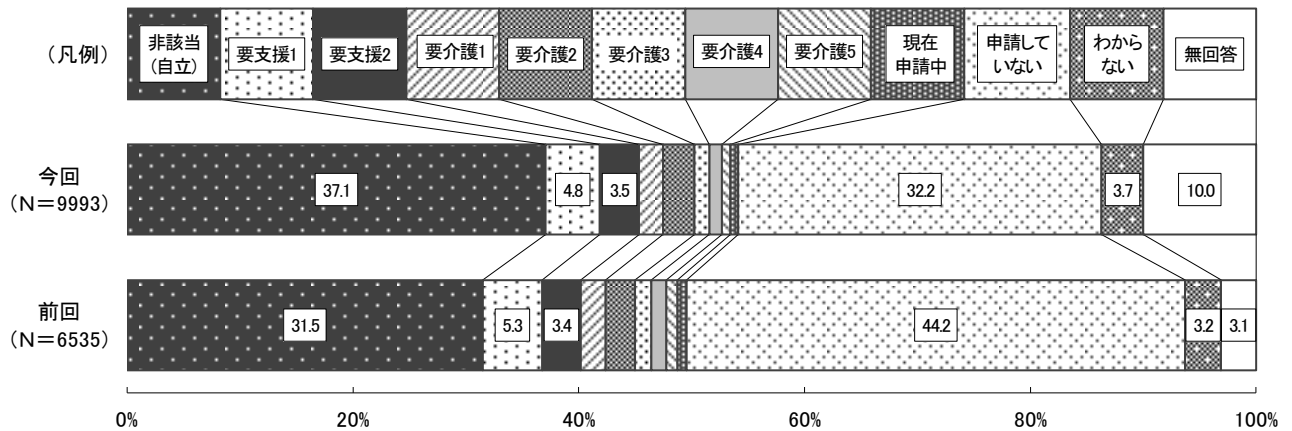


(3) 健康状態、健康に対する意識、日常生活の状況

問6 介護保険の申請・認定の状況

・介護保険の申請、認定状況については、「非該当(自立)」が最も多く、次いで「申請していない」となっており、あわせると約7割となっている。また、認定のある方の中では、「要支援1」「要支援2」「要介護2」の順に多く、比較的軽度な人が続いている。
 ・前回調査と比較すると、「非該当(自立)」は5.6ポイント高くなり、「申請していない」は12.0ポイント低くなっている。

【図6 介護保険の申請、認定状況】



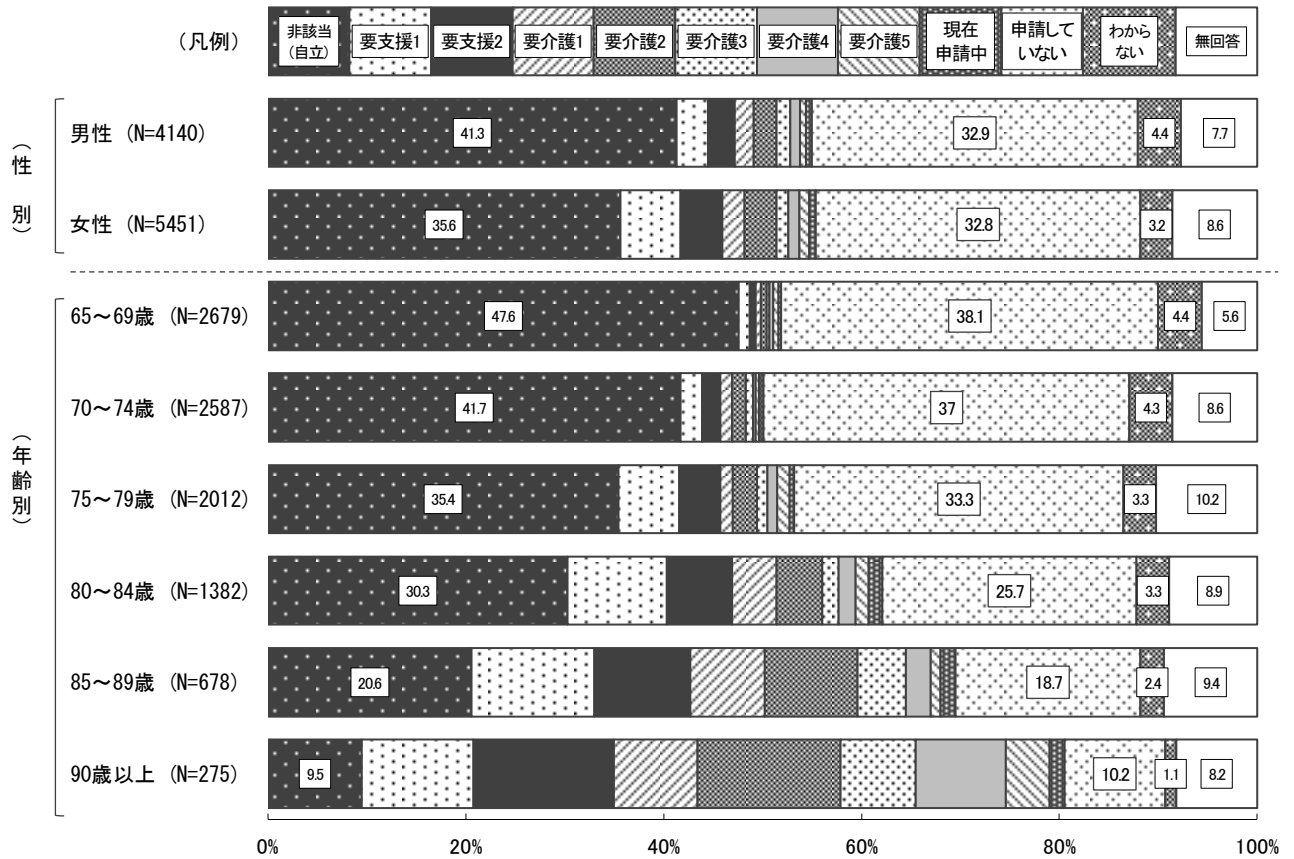
	非該当(自立)	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	現在申請中	申請していない	わからない	無回答
今回	37.1	4.8	3.5	2.1	2.8	1.3	1.1	0.8	0.7	32.2	3.7	10.0
前回	31.5	5.3	3.4	2.2	2.6	1.5	1.3	1.0	0.8	44.2	3.2	3.1

(3) 健康状態、健康に対する意識、日常生活の状況

問6 介護保険の申請・認定の状況

- ・性別で見ると、男性では、「非該当(自立)」「申請していない」の回答割合が女性より高く、「要支援1」、「要支援2」の回答割合は女性の方が高い。
- ・年齢別では、高齢なるほど、介護度が高くなる傾向にある。

【図6-1 介護保険の申請・認定状況(性別・年齢別)】



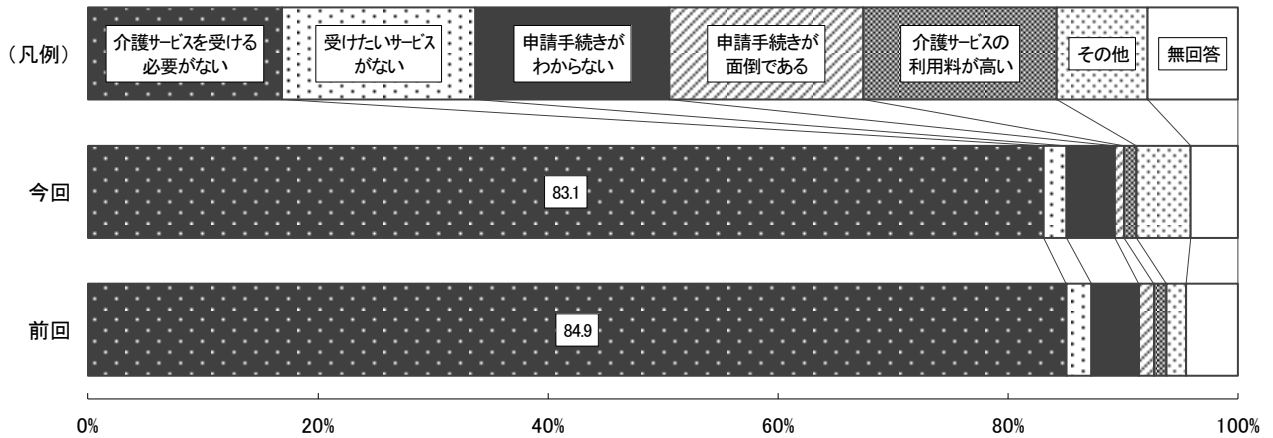
	非該当(自立)	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	現在申請中	申請していない	わからない	無回答
男性	41.3	3.2	2.7	1.9	2.3	1.4	1	0.6	0.6	32.9	4.4	7.7
女性	35.6	6.1	4.2	2.3	3.2	1.2	1.1	1	0.7	32.8	3.2	8.6
65～69歳	47.6	1.1	0.6	0.5	0.6	0.3	0.4	0.5	0.3	38.1	4.4	5.6
70～74歳	41.7	2.2	1.8	1.2	1.4	0.7	0.3	0.3	0.5	37	4.3	8.6
75～79歳	35.4	6.2	4.1	1.3	2.4	1.1	1	1.2	0.5	33.3	3.3	10.2
80～84歳	30.3	10	6.6	4.5	4.6	1.7	1.7	1.3	1.4	25.7	3.3	8.9
85～89歳	20.6	12.4	9.7	7.5	9.4	4.9	2.5	1	1.5	18.7	2.4	9.4
90歳以上	9.5	11.3	14.2	8.4	14.5	7.6	9.1	4.4	1.5	10.2	1.1	8.2

(3) 健康状態、健康に対する意識、日常生活の状況

問6-1 (介護認定の未申請の方) 申請をしていない理由

- ・申請していないと回答した人に、その理由をたずねると、「介護サービスを受ける必要がない」が83.1%と大部分を占めている。
- ・前回調査と比較しても、「介護サービスを受ける必要がない」の割合が高く、次いで「申請手続きがわからない」の順となっている。

【図6-1-2 申請していない理由(比較)】



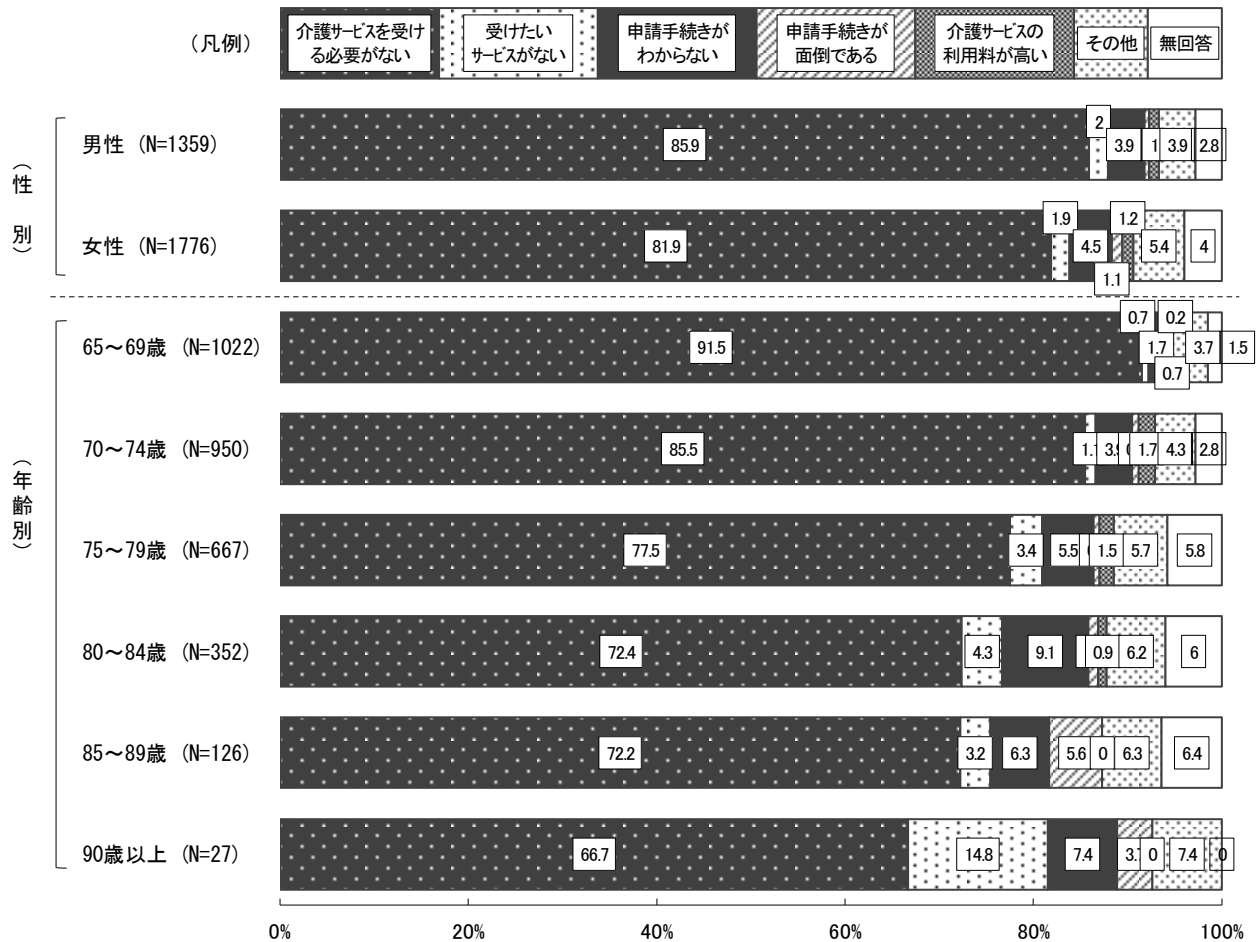
	介護サービスを受ける必要がない	受けたいサービスがない	申請の手続きがわからない	申請の手続きが面倒である	介護サービスの利用料が高い	その他	無回答
今回	83.1	2.0	4.2	0.8	1.1	4.7	4.1
前回	84.9	2.2	4.1	1.3	1.1	1.7	4.5

(3) 健康状態、健康に対する意識、日常生活の状況

問6-1 (介護認定の未申請の方) 申請をしていない理由

- ・性別でみると、「申請手続きがわからない」の回答割合は男性の方が高くなっている。
- ・年齢別では、概ね高齢になるほど「介護保険サービスを受ける必要がない」の回答割合が少なくなっている。また、90歳以上では、「受けないサービスがない」の回答割合が他よりも大幅に高い。

【図6-1-2 申請していない理由(比較)】



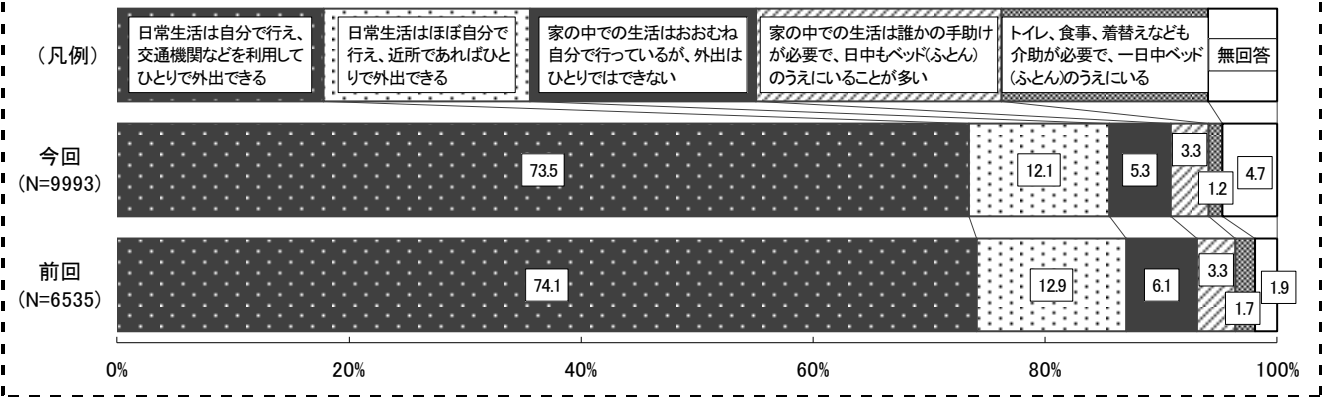
	介護保険の介護サービスを受ける必要がない	受けたいサービスがない	申請の手続きがわからない	申請の手続きが面倒である	介護保険の介護サービスの利用料が高い	わからない	無回答
男性	85.9	2	3.9	0.5	1	3.9	2.8
女性	81.9	1.9	4.5	1.1	1.2	5.4	4
65～69歳	91.5	0.7	1.7	0.2	0.7	3.7	1.5
70～74歳	85.5	1.1	3.9	0.7	1.7	4.3	2.8
75～79歳	77.5	3.4	5.5	0.6	1.5	5.7	5.8
80～84歳	72.4	4.3	9.1	1.1	0.9	6.2	6
85～89歳	72.2	3.2	6.3	5.6	0	6.3	6.4
90歳以上	66.7	14.8	7.4	3.7	0	7.4	0

(3) 健康状態、健康に対する意識、日常生活の状況

問7 日常生活動作・日常的な活動の状況

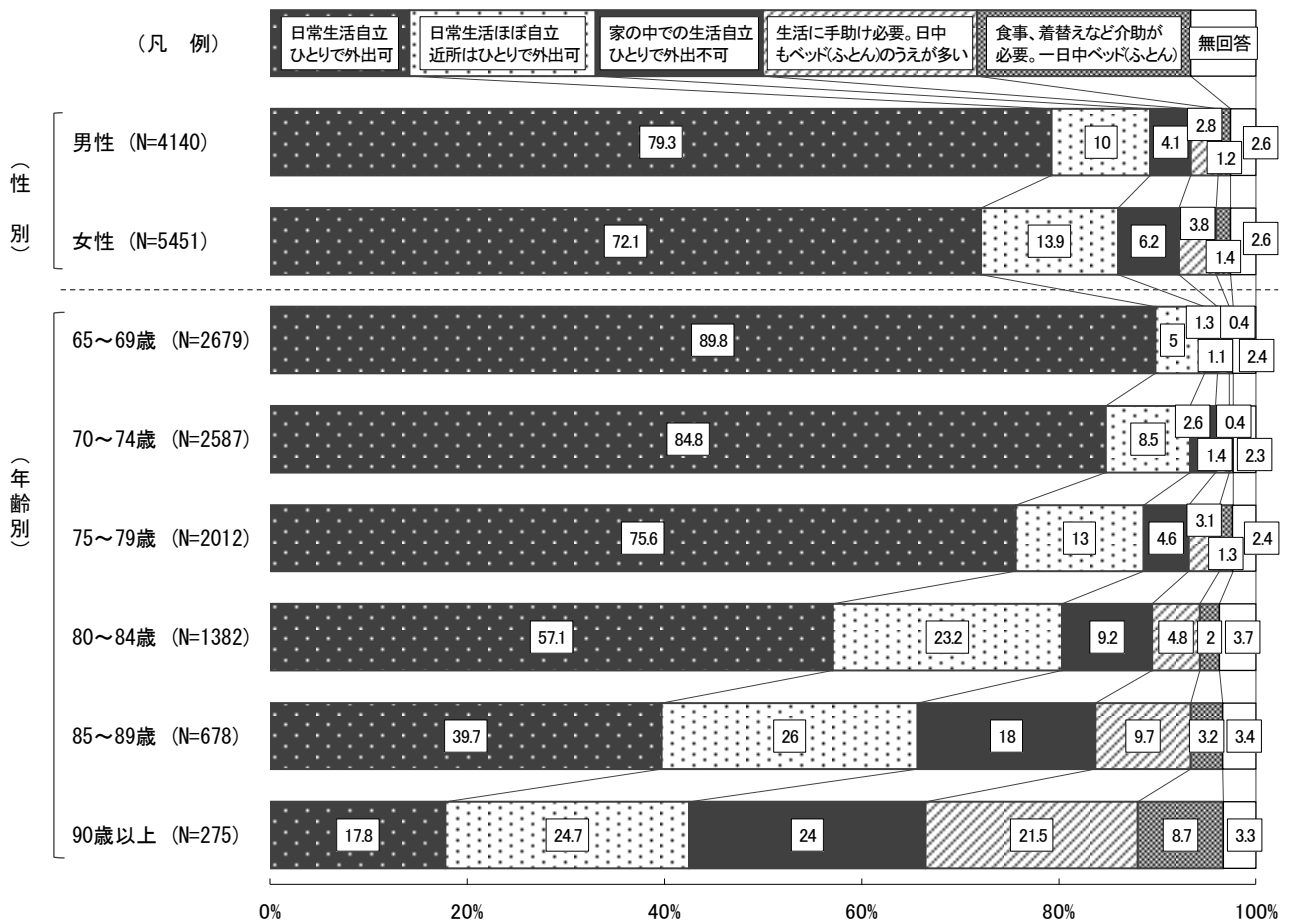
・日常生活動作は、「日常生活は自分で行え、一人で外出できる」が73.5%と大部分を占め、「日常生活はほぼ自分で行え、近所であればひとりで外出できる」(12.1%)が続き、85.6%の方が『日常生活はほぼ自分で行え、外出ができる』状況となっている。
 ・前回調査と比較しても、同様に8割以上の方が、『日常生活はほぼ自分で行え、外出ができる』となっており、概ね同様の傾向となっている。

【図7 日常生活動作・日常的な活動の状況】



・性別でみると、『日常生活はほぼ自分で行え、外出できる』割合は、女性よりも男性の方がやや高い。
 ・年齢別にみると、概ね高齢になるほど、介護や援助が必要が状態が高くなっている。

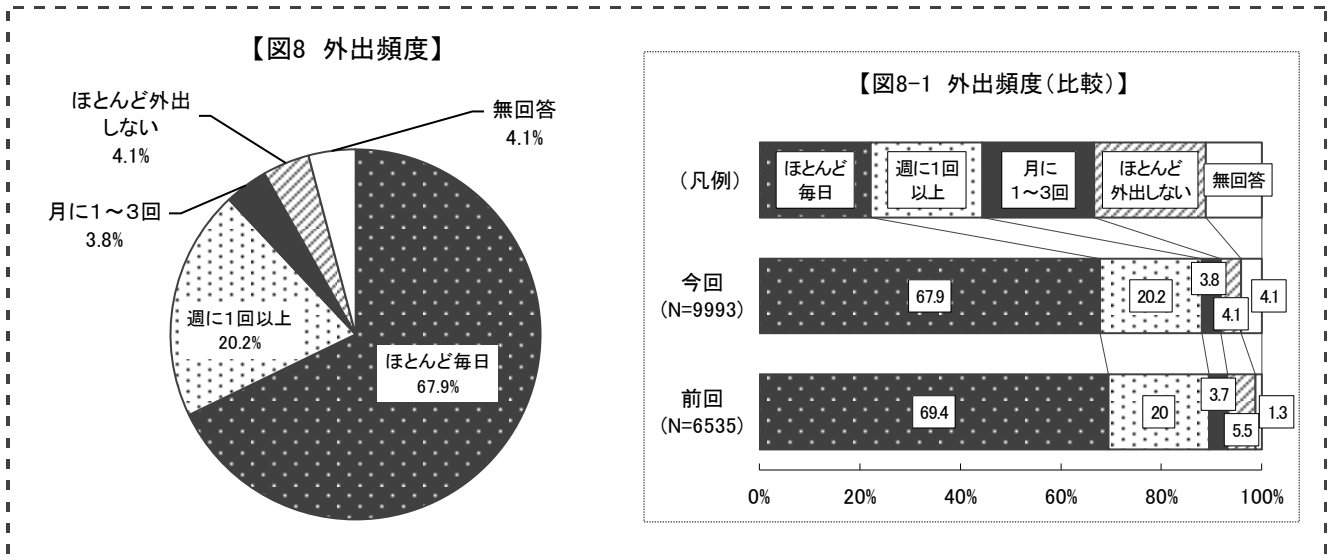
【図7-a 日常生活動作・日常的な活動の状況(性別・年齢別)】



(3) 健康状態、健康に対する意識、日常生活の状況

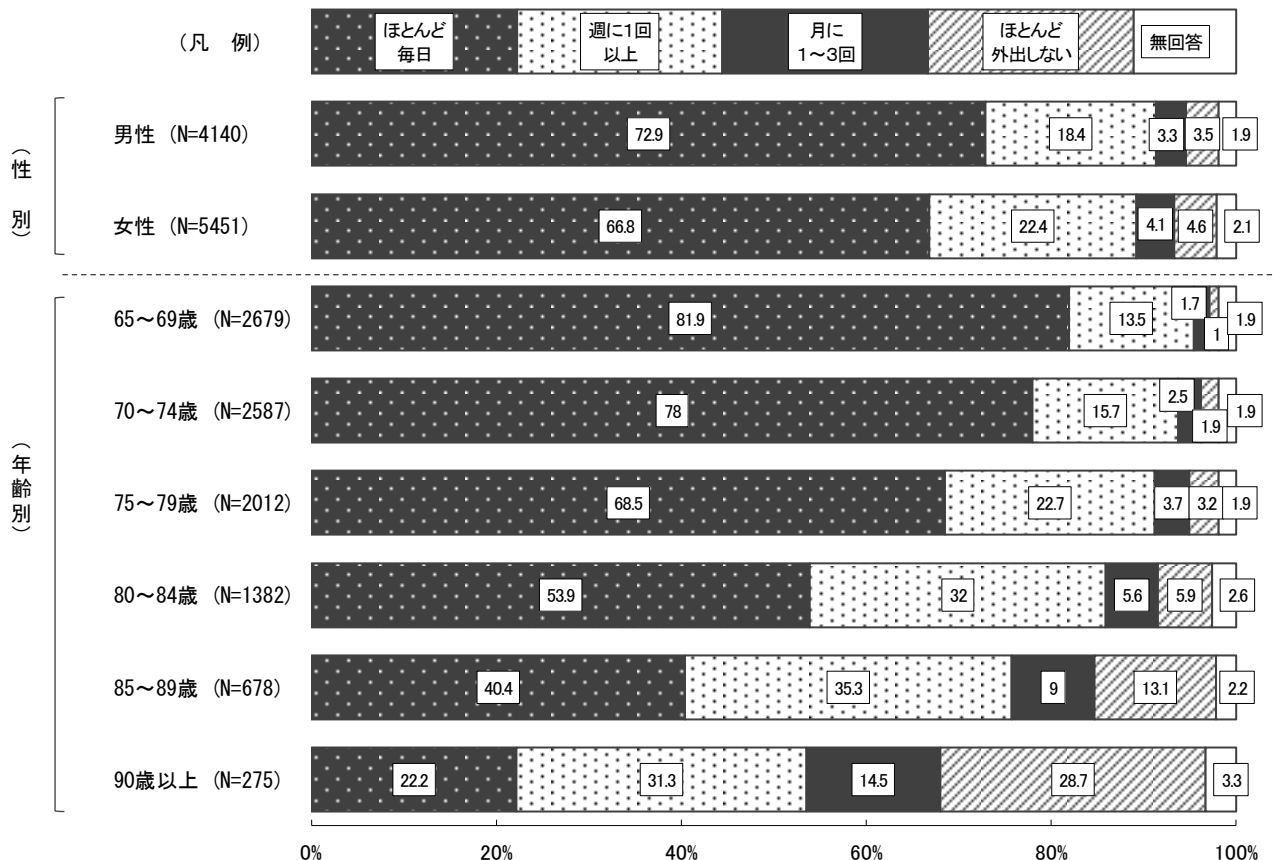
問8 外出の頻度

- ・外出の頻度については、「ほとんど毎日」が67.8%で最も多く、「週に1回以上」をあわせると9割近く(88.0%)となる。
- ・前回調査と比較しても概ね前回と同様の傾向となっている。



- ・性別でみると、「ほとんど毎日外出する」との回答割合は男性の方が高いが、「週に1回以上」の回答割合は女性の方が高い。
- ・年齢別にみると、外出の頻度は、概ね高齢になるほど少なくなっているが、90歳以上でも半数以上の方が「週に1回以上」外出しているとの回答となっている。

【図8-a 外出頻度(性別・年齢別)】

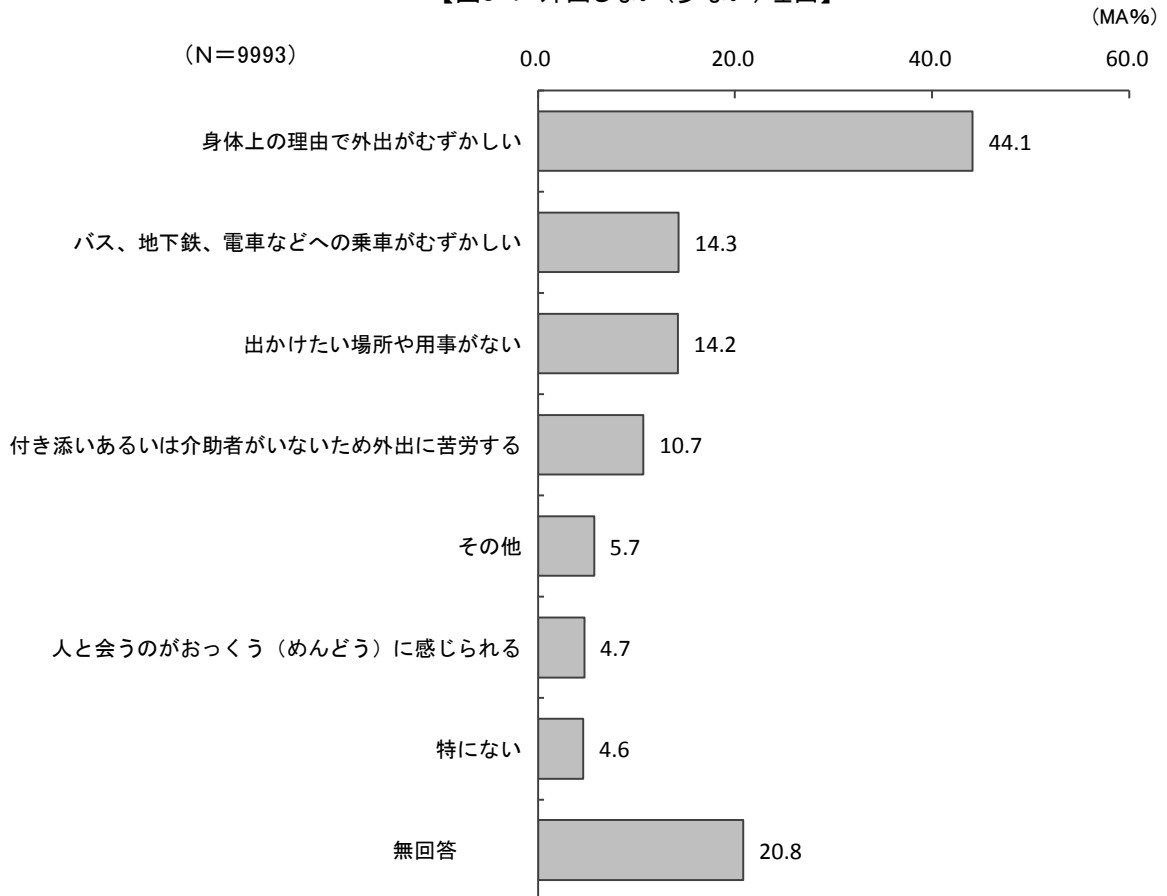


(3) 健康状態、健康に対する意識、日常生活の状況

問8-1 (外出の頻度が少ない方) 外出しない(少ない)理由 (複数回答)

・外出の頻度が少ないと回答した方に、その理由をたずねると、「身体上の理由で外出がむずかしい」が44.1%で最も多く、次いで「バス、地下鉄、電車などへの乗車がむずかしい」(14.3%)、「出かけた場所や用事がない」(14.2%)となっている。

【図8-1 外出しない(少ない)理由】

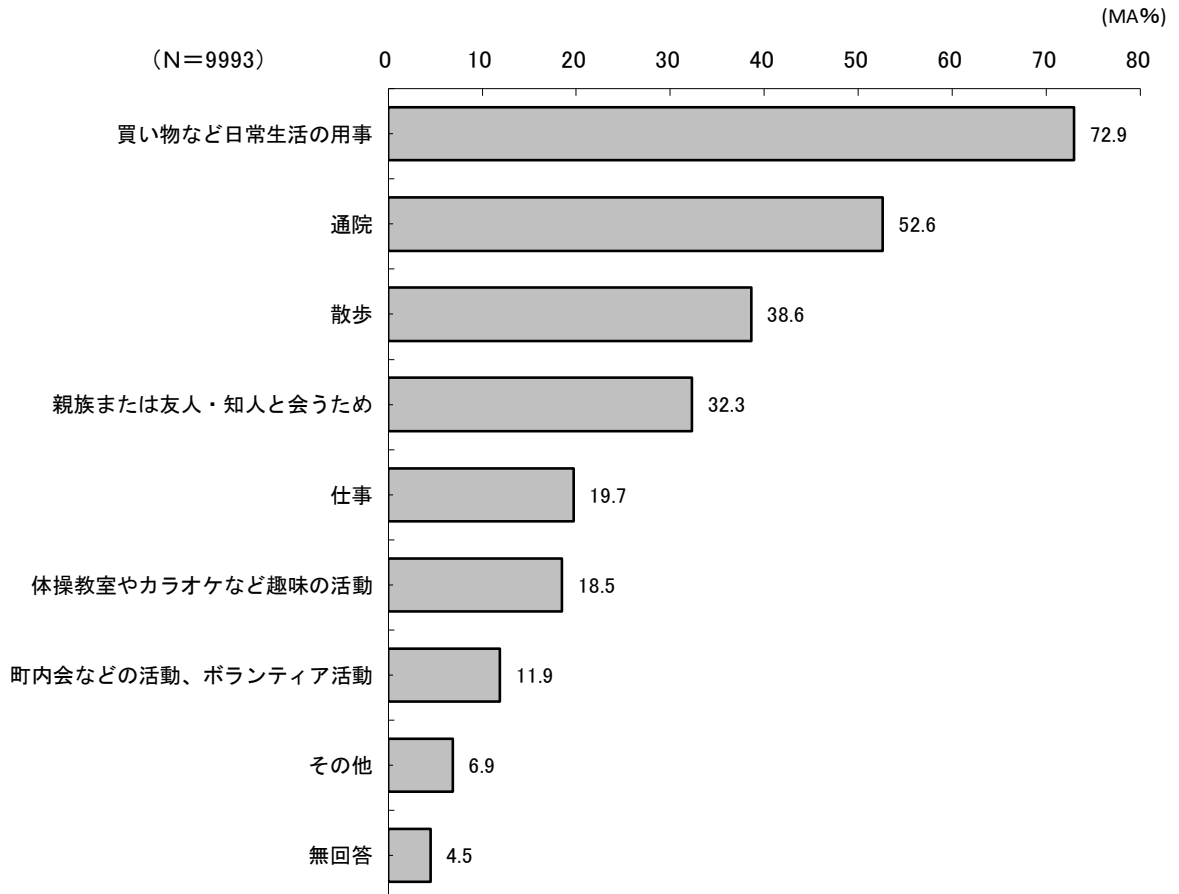


(3) 健康状態、健康に対する意識、日常生活の状況

問9 外出するときの目的

・外出するときの目的をたずねると、「買い物など日常生活の用事」が72.9%と最も多く、次いで「通院」が52.6%、「散歩」が38.6%となっている。

【図9 外出するときの目的】

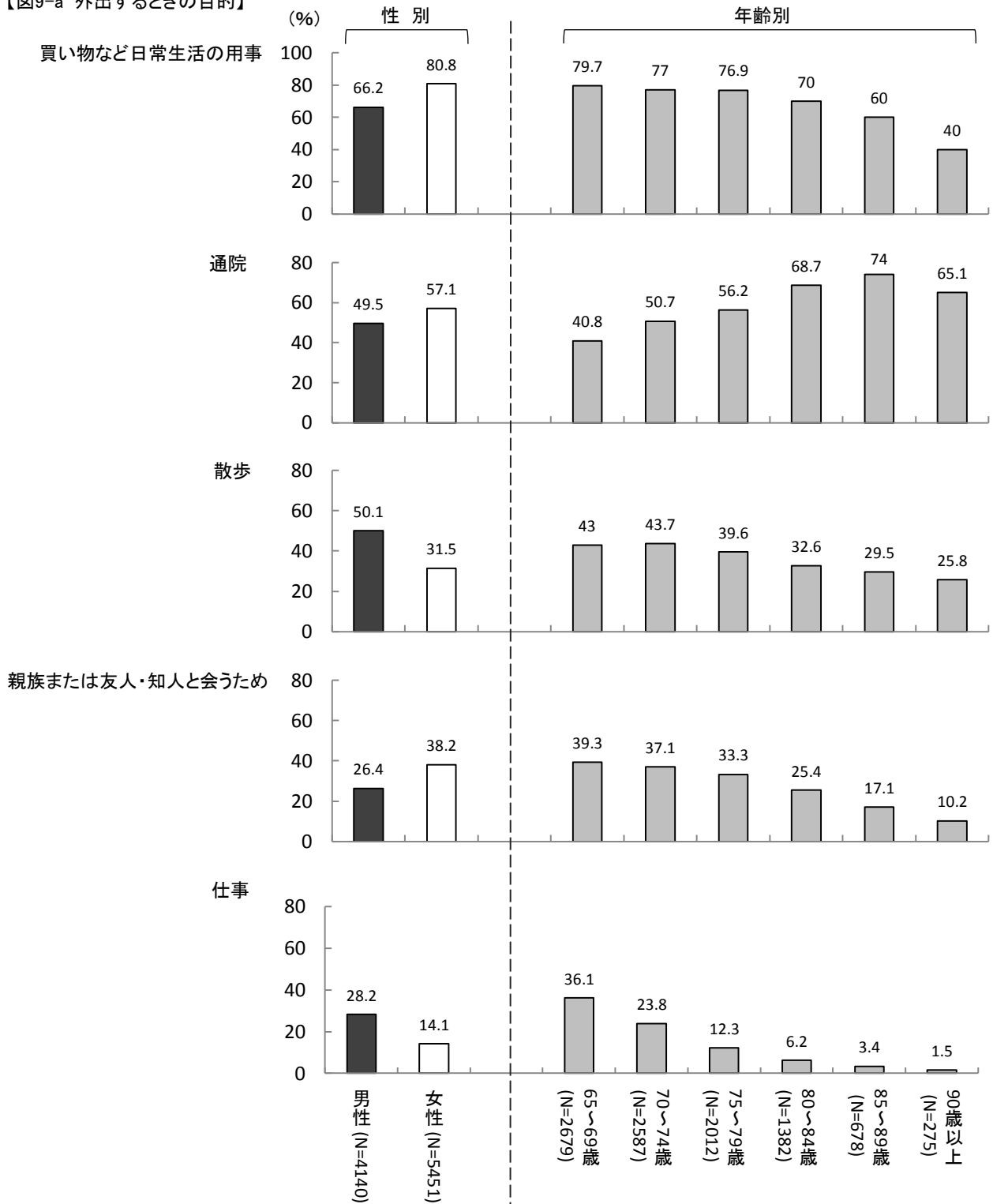


(3) 健康状態、健康に対する意識、日常生活の状況

問9 外出するときの目的 (性別・年齢別)

- ・性別で見ると、「買い物などの用事」「通院」「人と会うため」は女性の割合が高く、「散歩」「仕事」は男性の方が高くなっている。
- ・年齢別では、「通院」のみが概ね高齢になるほど割合が高くなっている。

【図9-a 外出するときの目的】

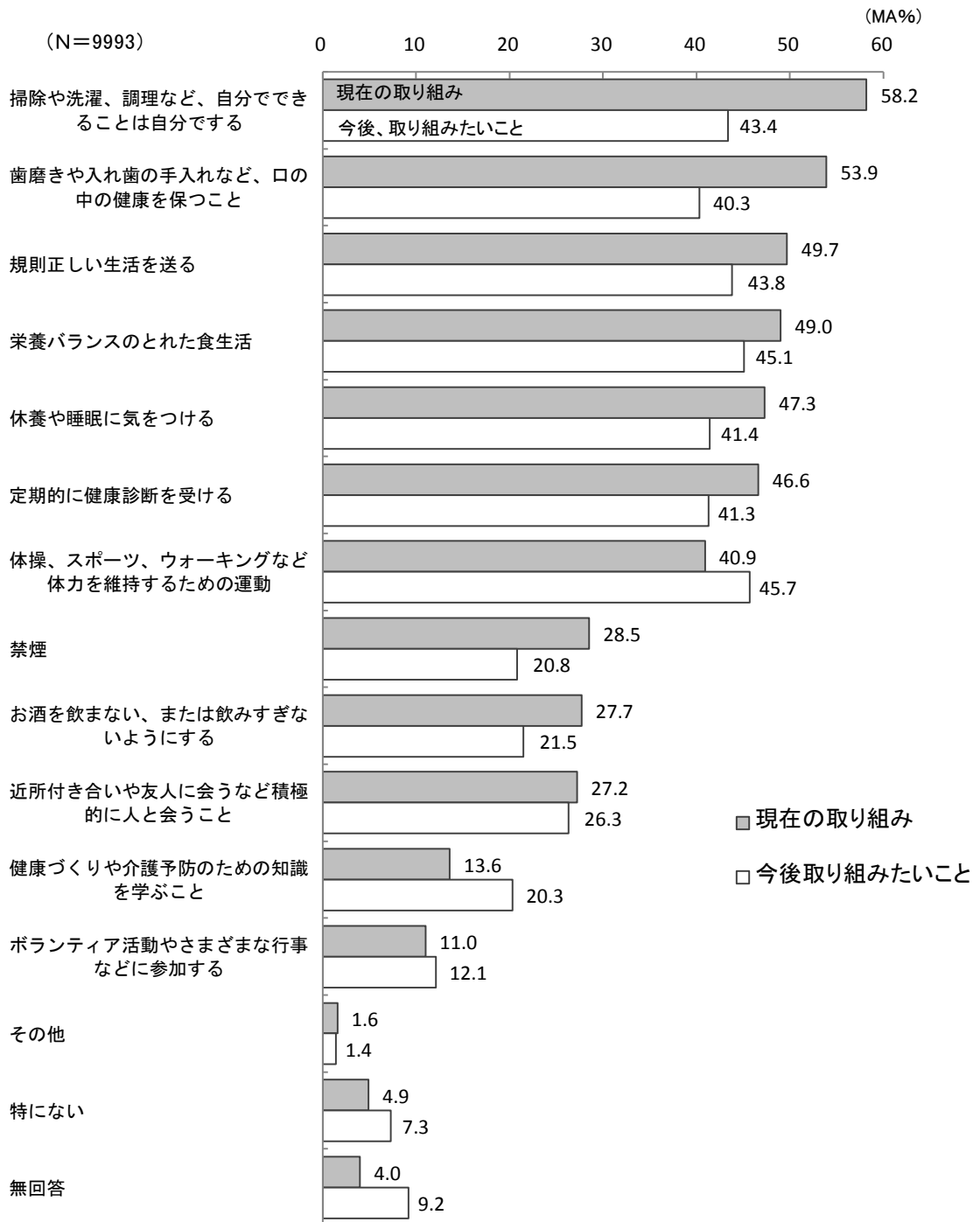


(3) 健康状態、健康に対する意識、日常生活の状況

問10 現在、健康のために気をつけていること
問11 今後、健康のために取り組みたいこと (複数回答)

・現在の健康への留意状況では、「掃除や洗濯、調理など、自分でできることは自分でする」が58.2%で最も多く、次いで「歯磨きや入れ歯の手入れなど、口の中の健康を保つこと」が53.9%となっている。
・今後の健康のために取り組みたいことは、「体操、スポーツ、ウォーキングなど体力を維持するための運動」が45.7%で最も多く、次いで「栄養バランスのとれた食生活」が45.1%となっている。
・「健康づくりや介護予防のための知識を学ぶこと」は、現在の留意状況に対して、今後取り組みたいと回答された方の割合が多くなっている。

【図10 現在の健康への留意状況、今後の健康のために取り組みたいこと】

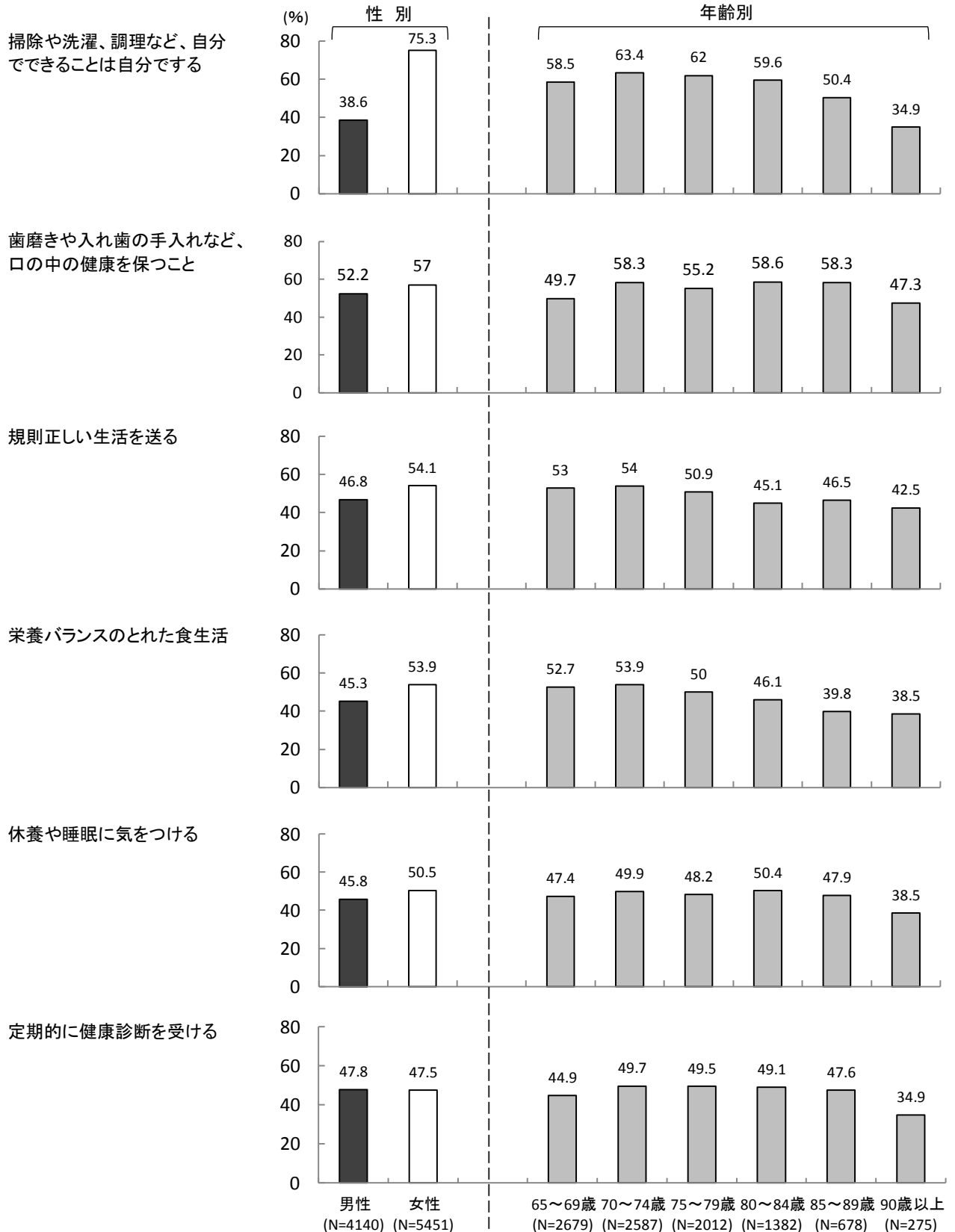


(3) 健康状態、健康に対する意識、日常生活の状況

問10 現在、健康のために気をつけていること (性別・年齢別)

・現在の健康の留意状況について性別で見ると、男性は「歯磨きや入れ歯の手入れなど、口の中の健康を保つこと」が52.2%で最も多い。「掃除や洗濯、調理など、自分でできることは自分でする」は男性では38.6%で最も少ないが、女性では75.3%で最も多い。「定期的に健康診断を受ける」については、男女差が最も小さい。
 ・年齢別では、「歯磨きや入れ歯の手入れなど、口の中の健康を保つこと」は、85歳以上では最も多い回答となっている。

【図10-a 現在の健康への留意状況、今後の健康のために取り組みたいこと(性別・年齢別)】

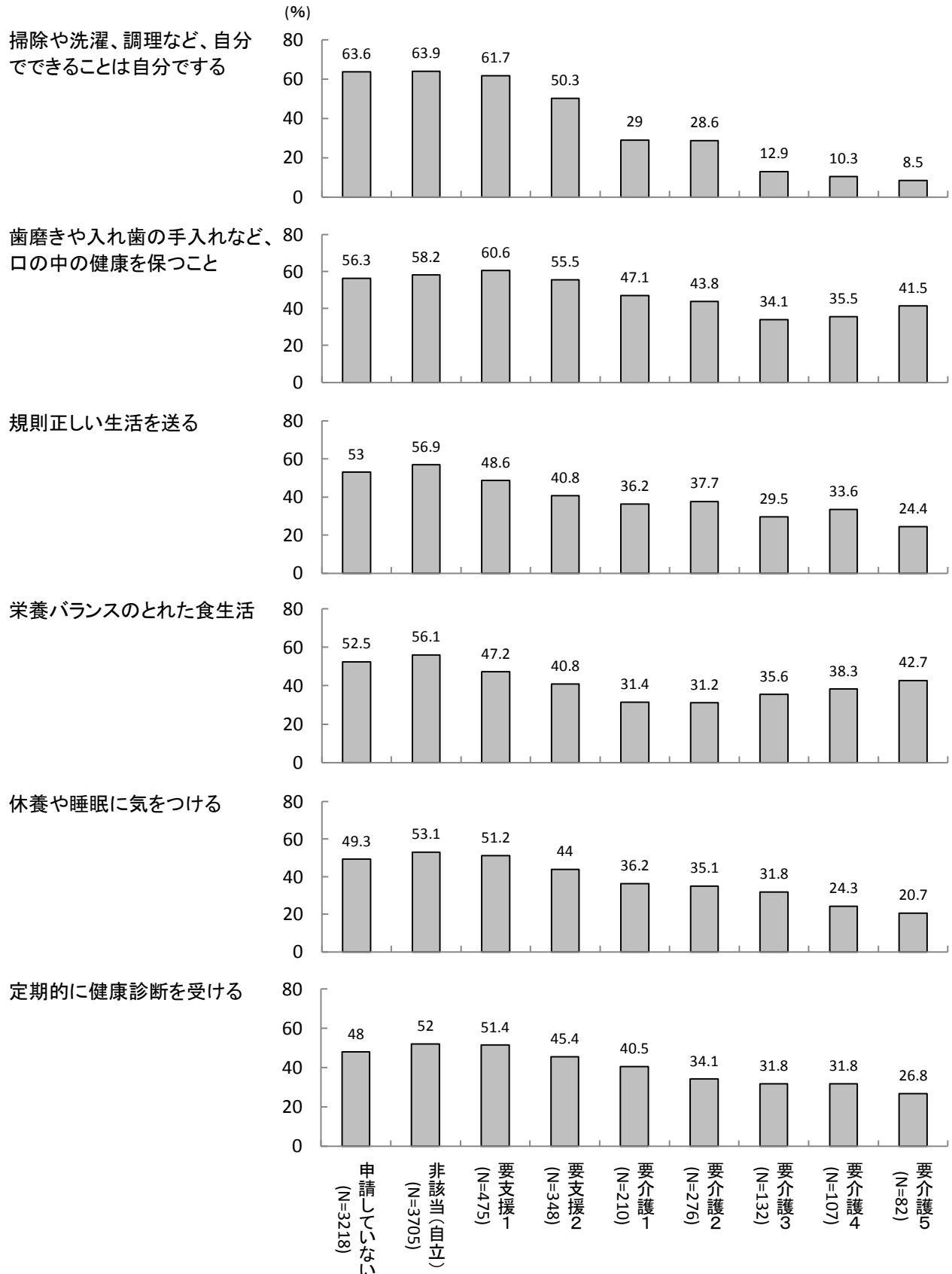


(3) 健康状態、健康に対する意識、日常生活の状況

問10 現在、健康のために気をつけていること (介護度別)

・現在の健康の留意状況について介護度別でみると、「掃除や洗濯、調理など、自分でできることは自分でする」は、申請していないから要支援1の各区分の中で1番多いが、要介護2以上では少なくなっている。
・要支援2から要介護2まででは「歯磨きや入れ歯の手入れなど、口の中の健康を保つこと」の回答が最も多く、要介護3以上では「栄養バランスのとれた食生活」との回答が最も多い。

【図10-b 現在の健康への留意状況、今後の健康のために取り組みたいこと(介護度別)】

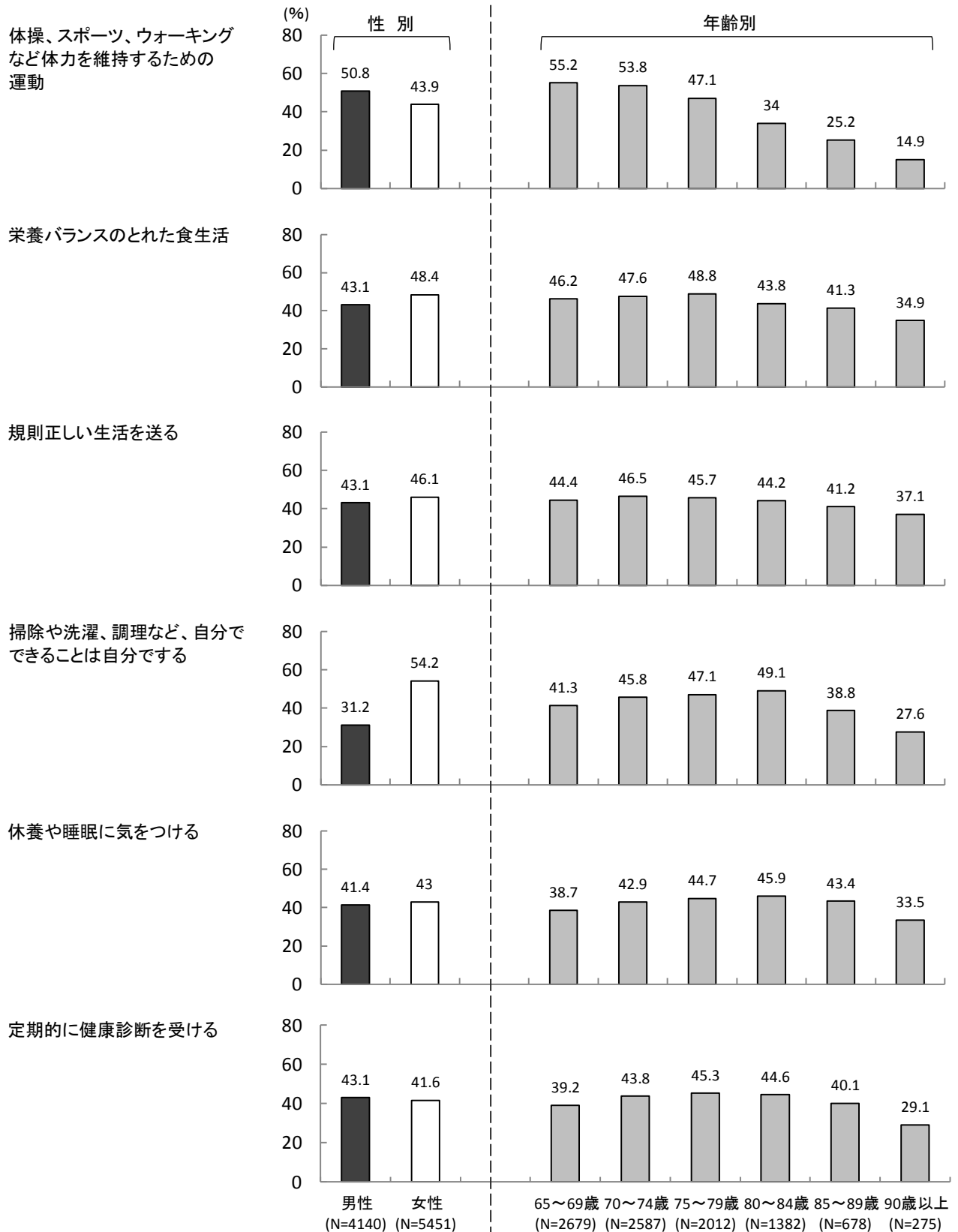


(3) 健康状態、健康に対する意識、日常生活の状況

問11 今後、健康のために取り組みたいこと (性別・年齢別)

・今後取り組みたいことについて、性別で見ると、男性は「体操など体力を維持するための運動」が50.8%で最も多く、「掃除など、自分でできることは自分でする」が31.2%で最も少ない。女性は「掃除など、自分でできることは自分でする」が最も多くなっている。
 ・年齢別では、「体操など体力を維持するための運動」が高齢になるにつれて低下する率が大きく、「規則正しい生活を送る」は年齢区分による差が少ない。

【図11-a 今後、健康のために取り組みたいこと(性別・年齢別)】

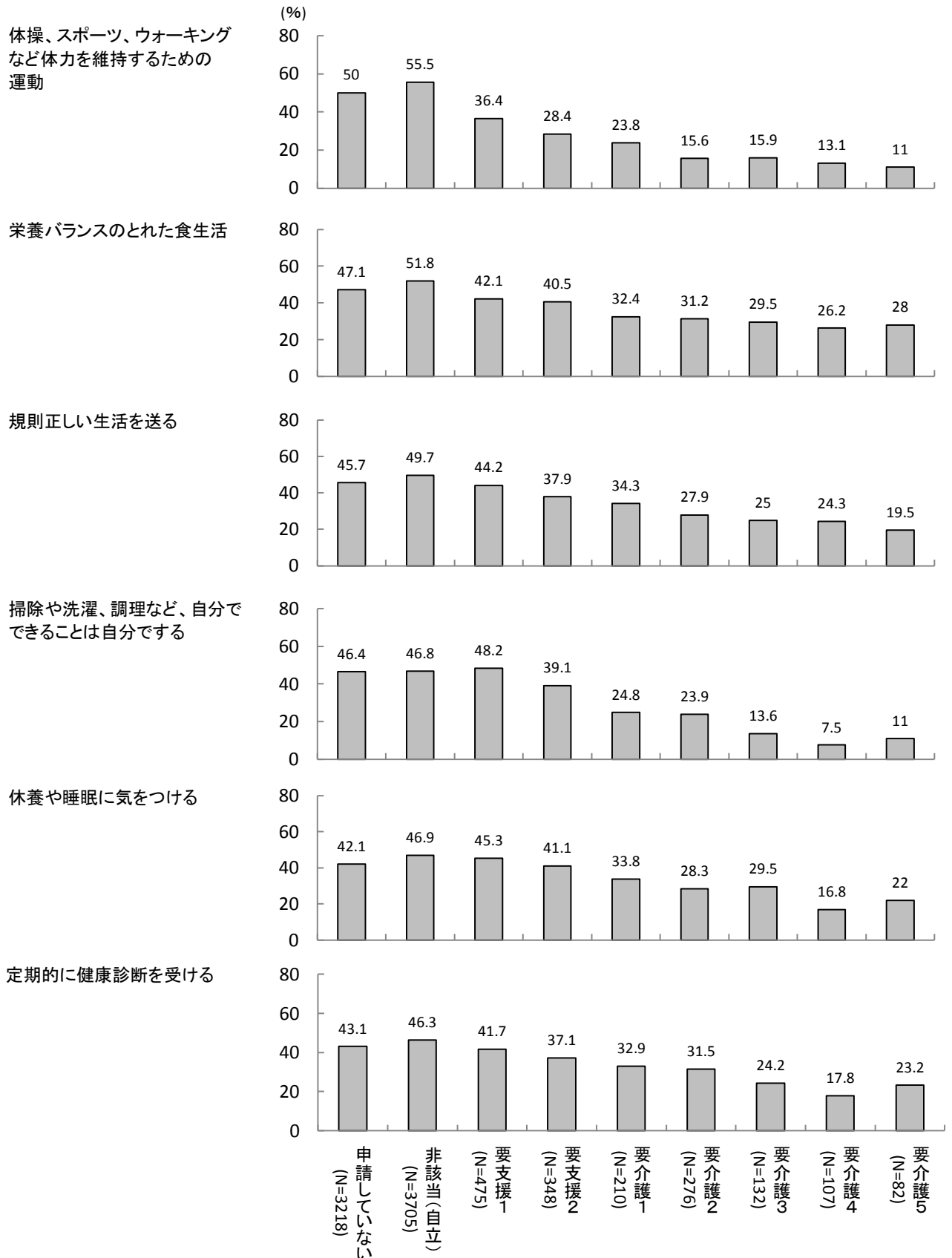


(3) 健康状態、健康に対する意識、日常生活の状況

問11 今後、健康のために取り組みたいこと (介護度別)

- ・今後取り組みたいことについて、介護度別でみると、申請していない、非該当(自立)は「体操など体力を維持するための運動」の回答が最も多いが、要支援1以上では少ない傾向がある。
- ・「栄養バランスのとれた食生活」は要介護3以上の各介護度の中で、1番多い回答となっている。

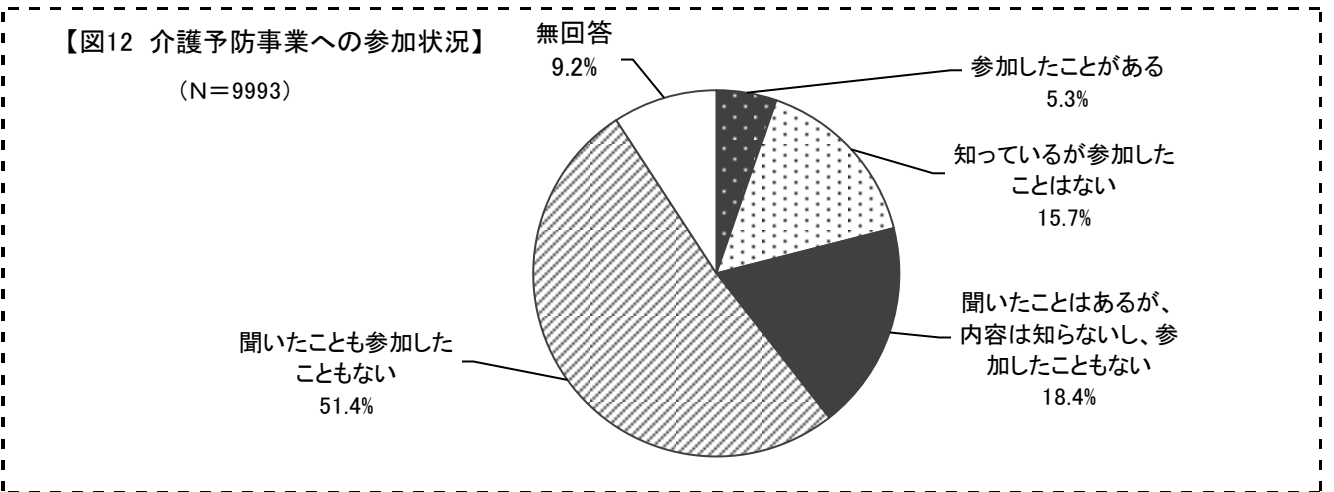
【図11-b 今後、健康のために取り組みたいこと(介護度別)】



(3) 健康状態、健康に対する意識、日常生活の状況

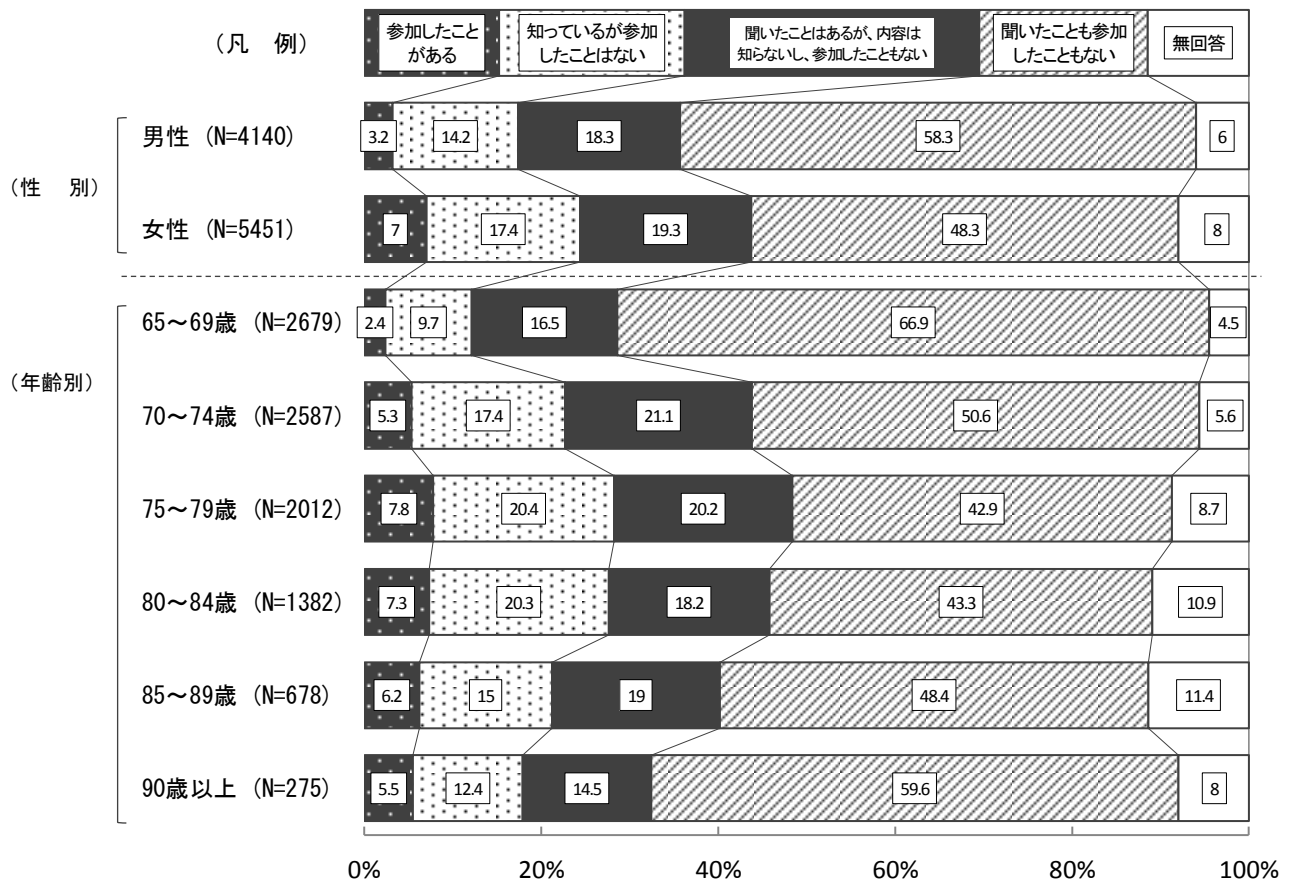
問12 介護予防事業への参加状況

・大阪市の介護予防事業への参加状況は、事業について「聞いたことも参加したこともない」が51.4%と最も多い。「知っているが参加したことはない」(15.7%)、「聞いたことはあるが、内容は知らないし、参加したこともない」(18.4%)とあわせると、『参加したことがない』人は85.5%となる。



・性別でみると、「参加したことがある」は男性が3.2%で女性が7.0%で倍近くの差がある。また、男性は「聞いたことも参加したこともない」が女性よりも多い。
・年齢別では、「参加したことがある」は75～84歳代で多い。65～69歳では「参加したことがある」が最も低く、「聞いたことも参加したこともない」の回答も最も高い。

【図12-a 介護予防事業への参加状況(性別・年齢別)】

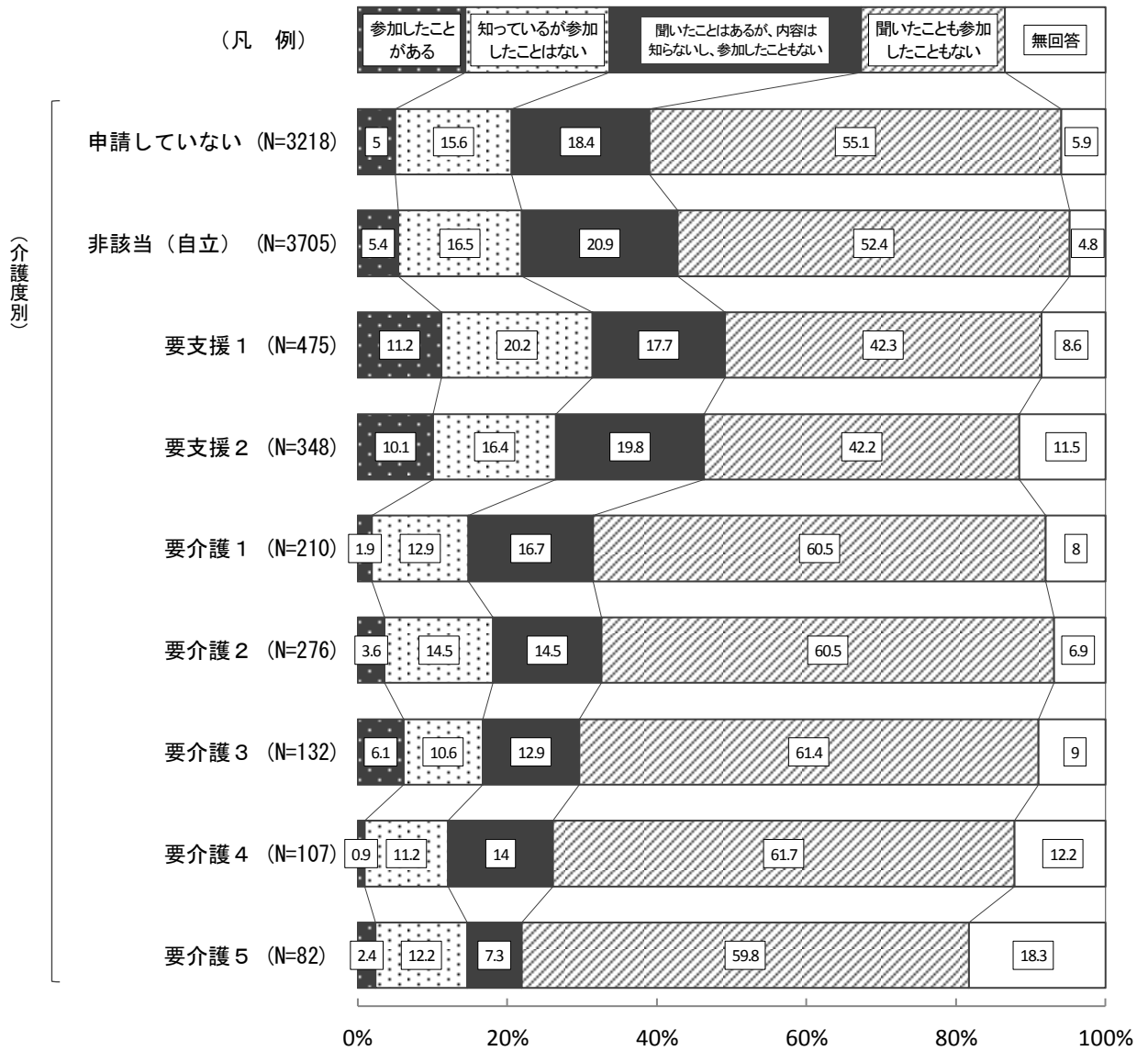


(3) 健康状態、健康に対する意識、日常生活の状況

問12 介護予防事業への参加状況 (介護度別)

- ・介護度別で見ると、要支援1及び2は、「知っているが参加したことはない」を含めると、他よりも認知度が高く、また、「参加したことがある」も多い。
- ・「聞いたことも参加したこともない」は、要介護1以上では、高い割合となっている。

【図12-b 介護予防事業への参加状況(介護度別)】



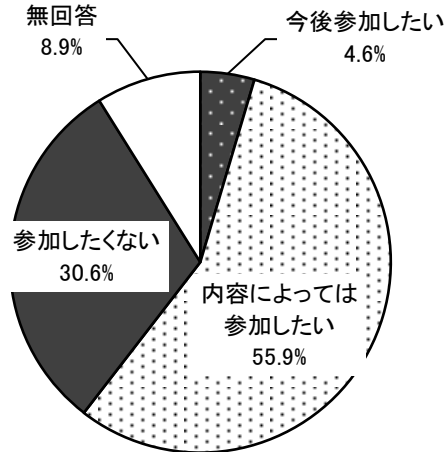
(3) 健康状態、健康に対する意識、日常生活の状況

問12-1 (介護予防事業に不参加の方) 事業への今後の参加意向

・介護予防事業へ参加したことがない人に参加意向をたずねたところ、「今後参加したい」、「内容によっては参加したい」という人は、60.5%となった。

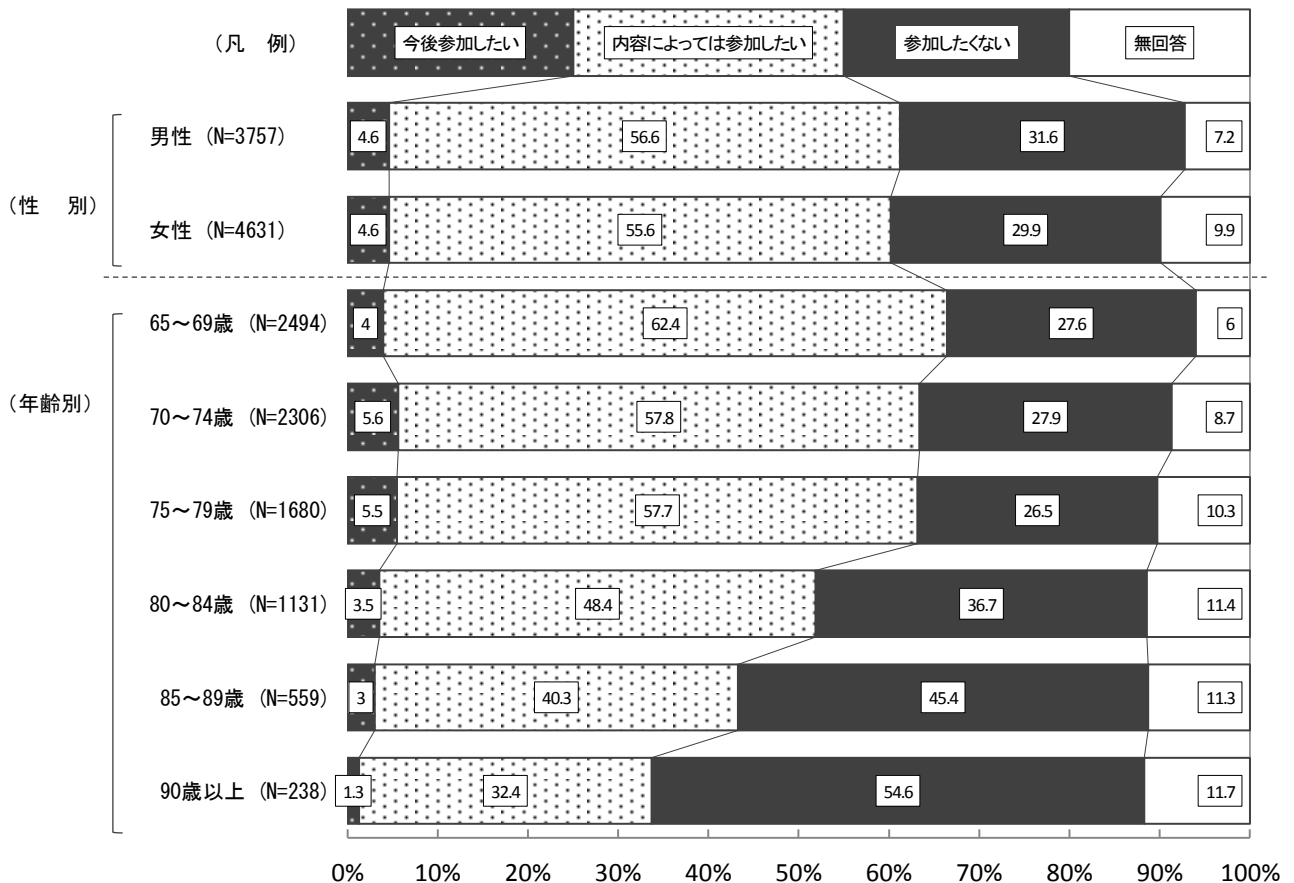
【図12-1 介護予防事業への参加意向】

(N=9993)



・性別では、大きな差は見られない。
 ・年齢別では、【図12-a】において、65～69歳代は参加実績や「知っている」との回答が全般的に少ないが、【図12-1-a】では、65～69歳で「内容によっては参加したい」を含めた参加意向は最も多い。

【図12-1-a 介護予防事業への参加意向(性別・年齢別)】

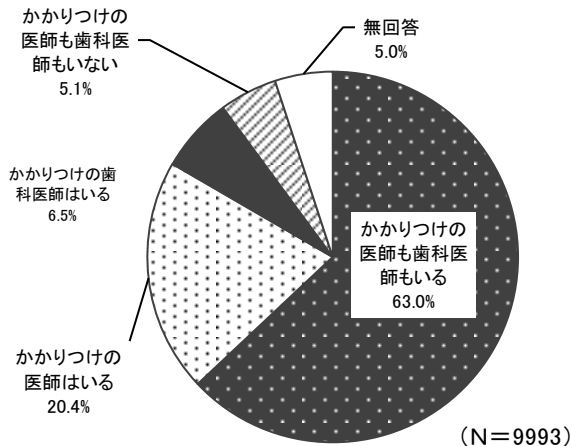


(3) 健康状態、健康に対する意識、日常生活の状況

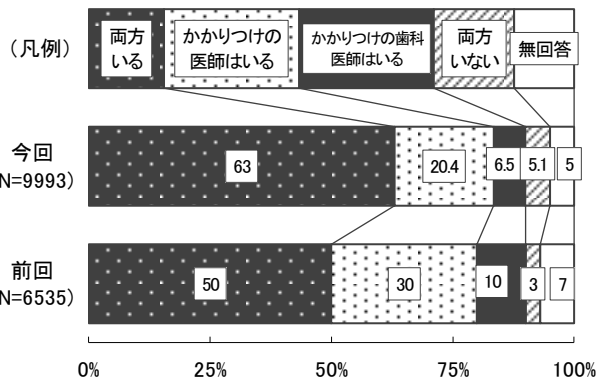
問13 かかりつけの医師・歯科医師の有無

- ・かかりつけ医・かかりつけ歯科医師の有無については、「かかりつけの医師も歯科医もいる」が63.0%となり、「かかりつけの医師はいる」「かかりつけの歯科医はいる」をあわせると89.9%となる。
- ・前回調査と比較すると、かかりつけの医師も歯科医師もいるの割合が高くなっている。

【図13 かかりつけ医、歯科医師の有無】

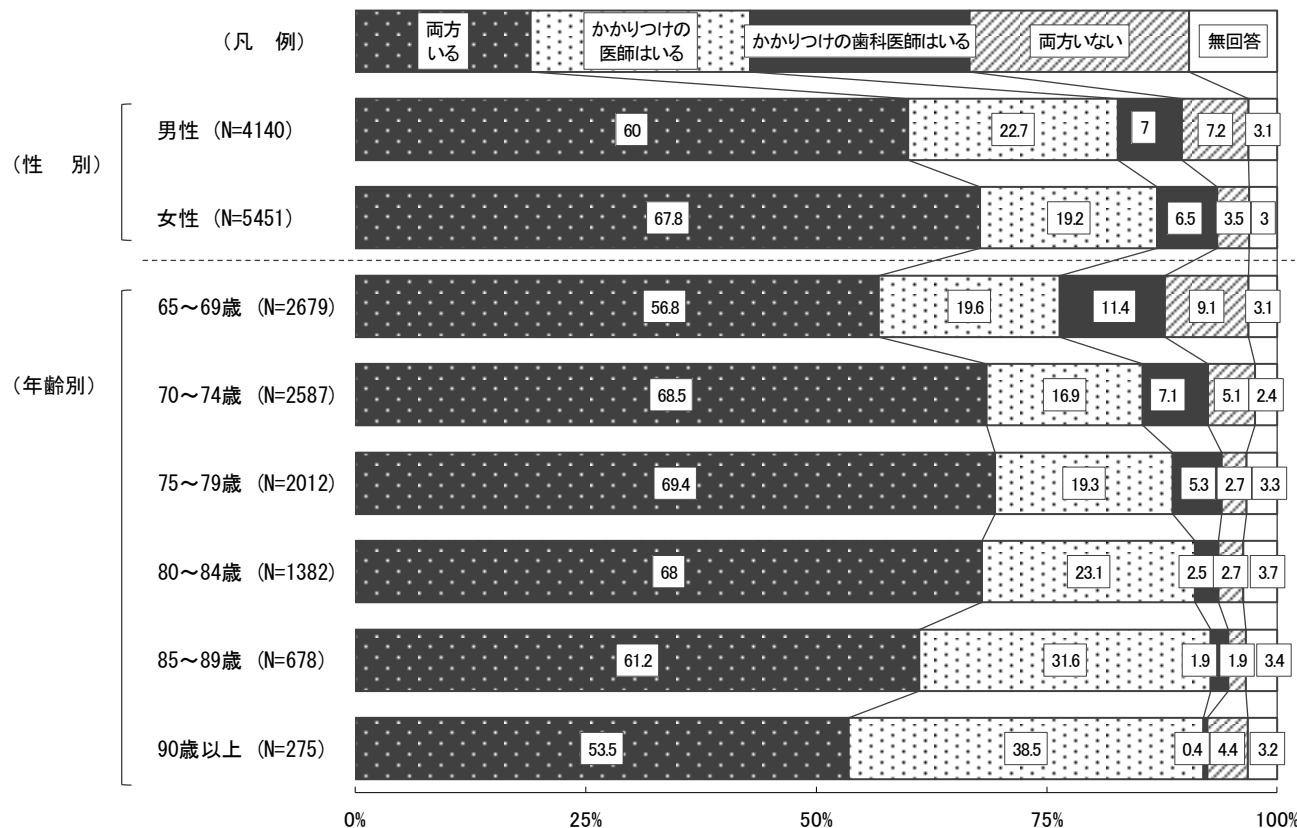


【図13-1 かかりつけ医、歯科医師の有無(比較)】



- ・性別でみると、女性の方が、かかりつけの医師または歯科医師のいる方の割合が高くなっている。
- ・年齢別では、概ね高齢になるほど、かかりつけの医師がいる割合は多くなっており、かかりつけの歯科医師のいる割合は少なくなっている。

【図13-a かかりつけ医、歯科医師の有無(性別・年齢別)】



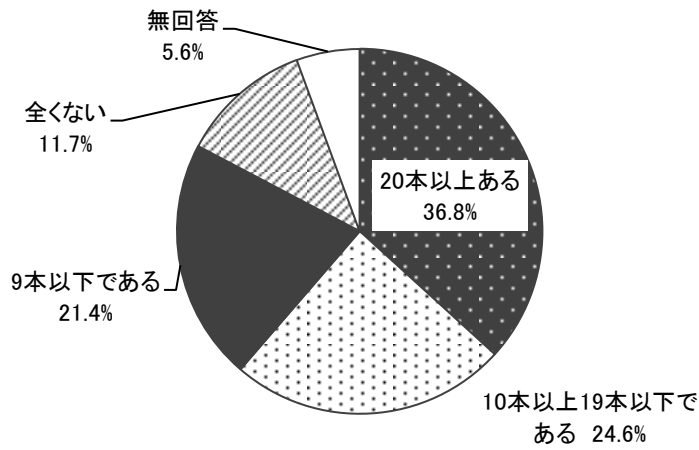
(3) 健康状態、健康に対する意識、日常生活の状況

問14 歯の状態

・歯の本数については、「20本以上ある」は36.8%で最も多く、次いで「10本以上19本以下である」が24.6%、「9本以下である」は21.4%となっている。

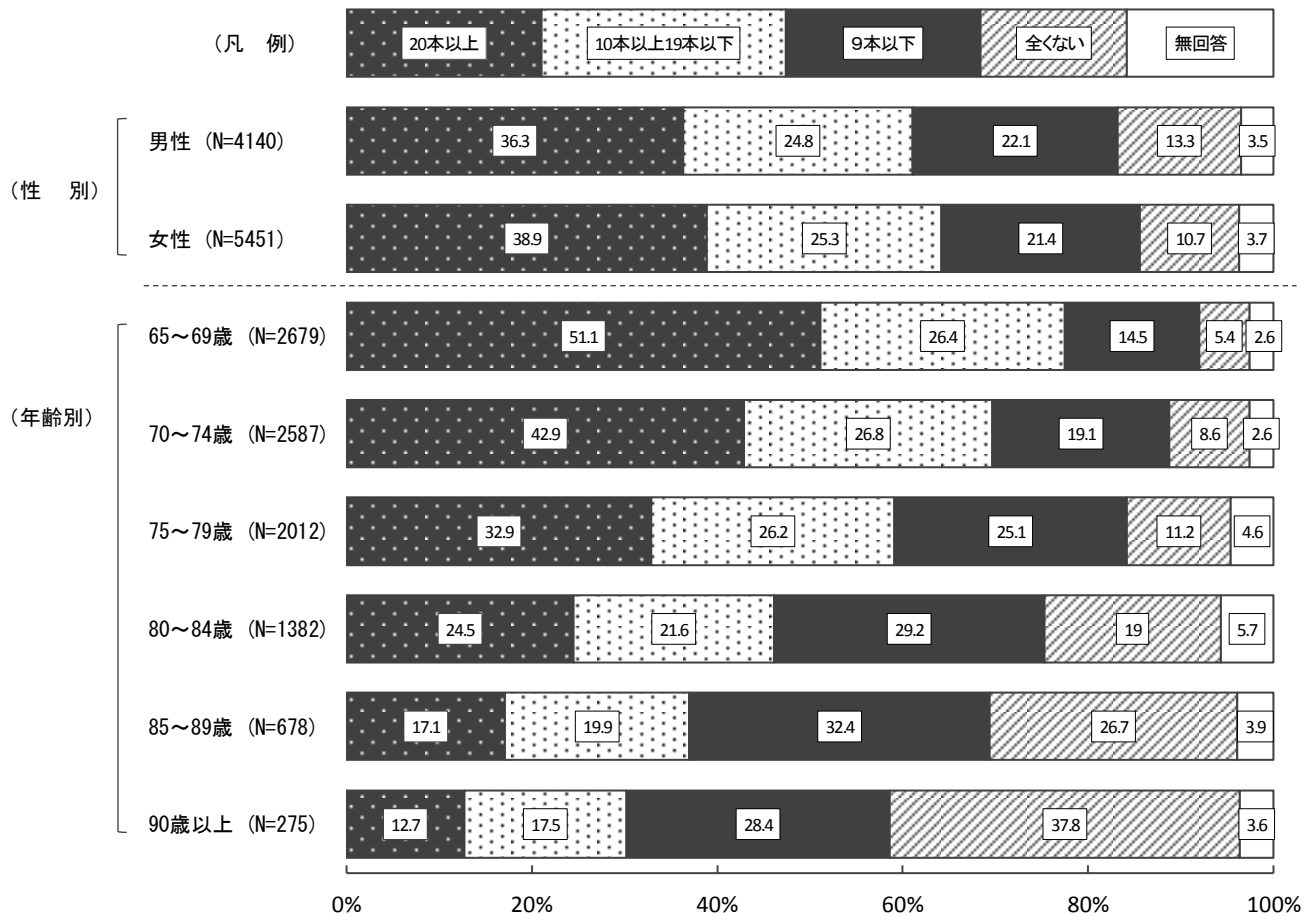
【図14 歯の本数】

(N=9993)



・性別でみると、女性の方がやや歯の本数が多い傾向がみられる。
 ・年齢別では、高齢になるほど歯の本数が減っていることがみられる。また、80歳以上で20本以上の歯を維持できているのは、80歳～84歳で24.5%、85～89歳で17.1%、90歳以上で12.7%となっている。

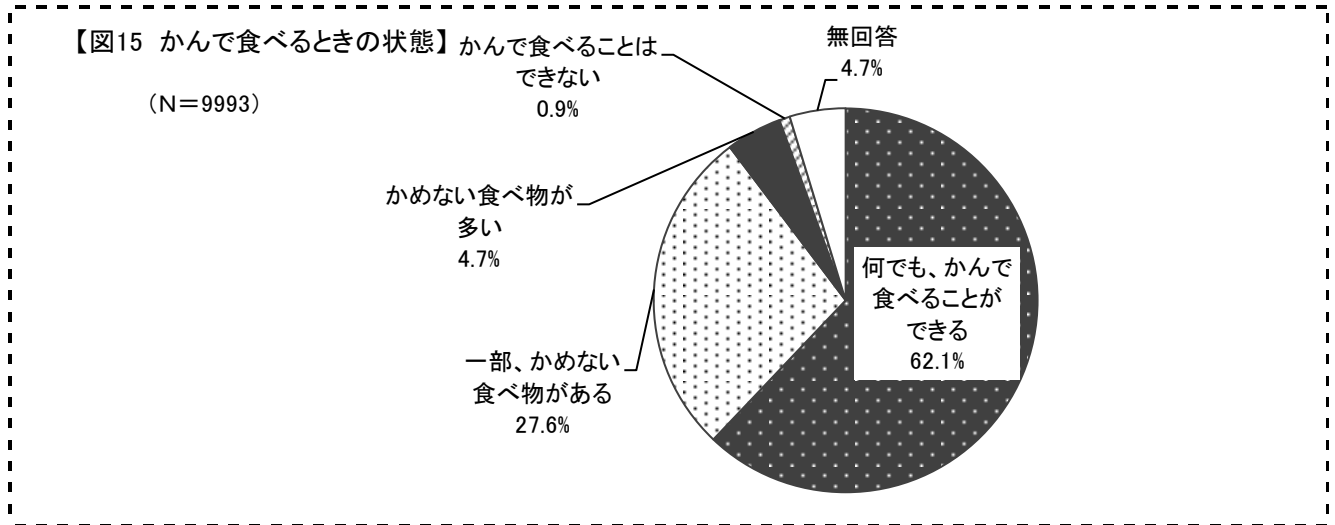
【図14-a 歯の状態(性別・年齢別)】



(3) 健康状態、健康に対する意識、日常生活の状況

問15 かねで食べる時の状態

・かねで食べる時の状態については、「何でも、かねで食べることができる」が62.1%と最も多く、「一部、かめない食べ物がある」(27.6%)、「かめない食べ物が多い」(4.7%)と続く。



・性別でみると、女性の方が比較的良好な口腔機能を維持していることが伺える。
 ・年齢別では、「何でも、かねで食べることができる」と「一部かめない食べ物がある」を合わせると、65～69歳が最も多く、最も少ない90歳以上とでは15.4ポイントの差がある。

【図15-a かねで食べる時の状態(性別・年齢別)】

